

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月24日

【計算期間】 第16特定期間
(自 平成25年5月28日 至 平成25年11月25日)

【ファンド名】 パインブリッジ新成長国債インカムオープン

【発行者名】 パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 杉 浦 和 也

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル

【事務連絡者氏名】 小 林 徹 也

【連絡場所】 本店の所在の場所に同じ

【電話番号】 03（5208）5947

【縦覧に供する場所】 該当なし

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

①ファンドの目的

主として「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ」および「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ」を通じて、新成長国が発行した米国ドル建て／ユーロ建て、および現地通貨建ての国債等に投資することにより、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

②ファンドの基本的性格

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類・属性区分において、以下のように分類されます。

<商品分類表>

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単 位 型 投 信	国 内	株 式
	海 外	債 券
追 加 型 投 信	内 外	不動産投信
		その他資産（ ）
		資産複合

（注）当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

<属性区分表>

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル	ファミリー ファンド	あり（ ）
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性（ ）	年2回	日 本		
	年4回	北 米		
	年6回 （隔月）	欧 州		
不動産投信	年12回 （毎月）	ア ジ ア	ファンド・ オブ・ ファンズ	な し
	日々	オセアニア		
		中 南 米		
その他資産 （投資信託証券（債券 一般））	日々	アフリカ		
資産複合（ ） 資産配分固定型 資産配分変更型	その他 （ ）	中近東（中東）		
		エマージング		

（注）当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

<商品分類・属性区分の定義>

- ・追加型投信…一度設定されたファンドであっても、その後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンド
- ・海外…目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるもの

- ・債券…目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるもの
 - ・その他資産（投資信託証券（債券 一般））…目論見書または信託約款において、投資信託証券への投資を通じて、実質的に債券（債券 一般…公債、社債、その他債券の属性区分にあてはまらないすべてのもの）に主として投資する旨の記載があるもの
 - ・年6回（隔月）…目論見書または信託約款において、年6回（隔月）決算する旨の記載があるもの
 - ・エマージング…目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるもの
 - ・ファミリーファンド…目論見書または信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するもの
 - ・為替ヘッジなし…目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないもの
- ※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。
- ※商品分類・属性区分の定義の詳細につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp>）をご参照ください。

③ファンドの特色

1. 「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ」および「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ」を主要投資対象とし、利子収入（インカム・ゲイン）の安定的な確保を目指しながら値上がり益も追求します。

- 当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

＜ファミリーファンド方式とは＞

受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みをいいます。



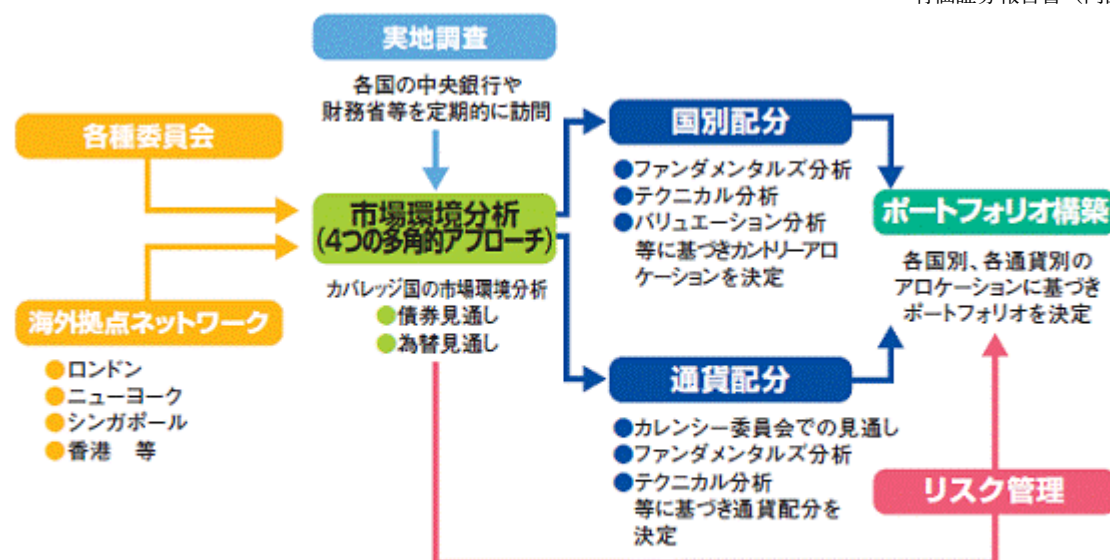
※マザーファンドは、他のベビーファンドが共有することがあります。

- 「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ」は、米国ドル建て／ユーロ建ての新成長国債券を主要投資対象とし、安定的なインカム収入の確保と中長期的な資産の成長を目指します。
- 「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ」は、現地通貨建ての新成長国債券およびそれと同等の価値を有する現地通貨建て国債連動債（クレジット・リンク・ノート：CLN）を主要投資対象とし、安定的なインカム収入の確保と中長期的な資産の成長を目指します。

クレジット・リンク・ノート(CLN)とは

投資の主対象である企業または債券の信用リスクを、別の債券の信用に結びつけたものです。当ファンドの投資対象であるCLNは、原則として、CLNの発行体である金融機関が現地通貨建ての新成長国債等を購入し、そこから得られる収益をCLNを通じて還元する仕組みです。CLNに投資することにより、ファンドが直接投資できない国や投資が困難な国への投資が可能となるとともに、現地通貨建ての新成長国債等に投資するのと同様の投資効果が期待できます。

2. 実質投資対象となる新成長国の分散を図り、カントリーリスクをコントロールします。また、米国ドル建て／ユーロ建て債と現地通貨建て債の利回り格差、および現地通貨の信頼性等を独自の手法で分析し、国別、通貨別アロケーションを決定します。



※4つの多角的アプローチとは、「グローバルアクセス」、「ファンダメンタルズ分析」、「テクニカル分析」および「バリュエーション分析」を指します。

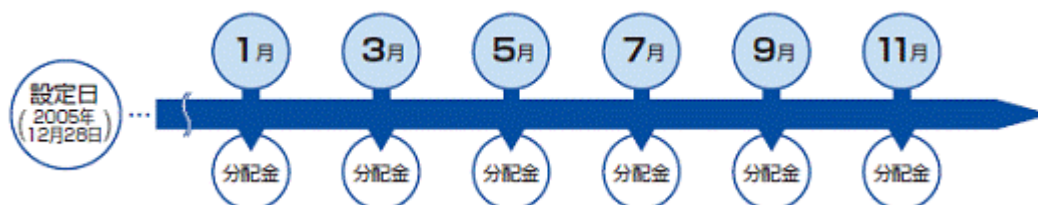
●運用プロセス

マザーファンドでは、4つの多角的アプローチから運用を行うことで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

- ・4つの多角的アプローチを用いて投資対象国の市場環境の分析を行い、その結果に基づいて国別配分、通貨配分を決定します。
- ・「PineBridge Investments」の海外拠点ネットワーク、各種委員会、実地調査をもとに、4つの多角的アプローチから市場環境分析が行われ、国別配分や通貨配分を決定し、これらに基づきポートフォリオが構築されます。

※前記の運用プロセス等は、今後変更することがあります。

3. 実質組入れの外貨建て資産については、原則として、為替ヘッジを行いません。
4. 実際の運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド（PineBridge Investments Europe Ltd.）に外貨建て資産の運用の指図に関する権限を委託します。
- パインブリッジ・インベストメンツ（委託会社）が属するPineBridge Investments は、ニューヨークに本部を置くグローバルな資産運用グループです。世界各地の拠点で投資チーム・顧客サービスチームのプロフェッショナルが、世界中に広がるネットワークを活用し、資産の運用管理に専念しております。
5. 原則として、奇数月（1・3・5・7・9・11月）の25日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、基準価額の水準等を勘案して分配を行います。なお、将来の分配金が保証されているものではなく、分配対象額が少額の場合等、分配を行わないことがあります。



※上記はイメージ図であり、将来の分配金のお支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

《新成長国債券市場の特徴》

[投資対象の新成長国]

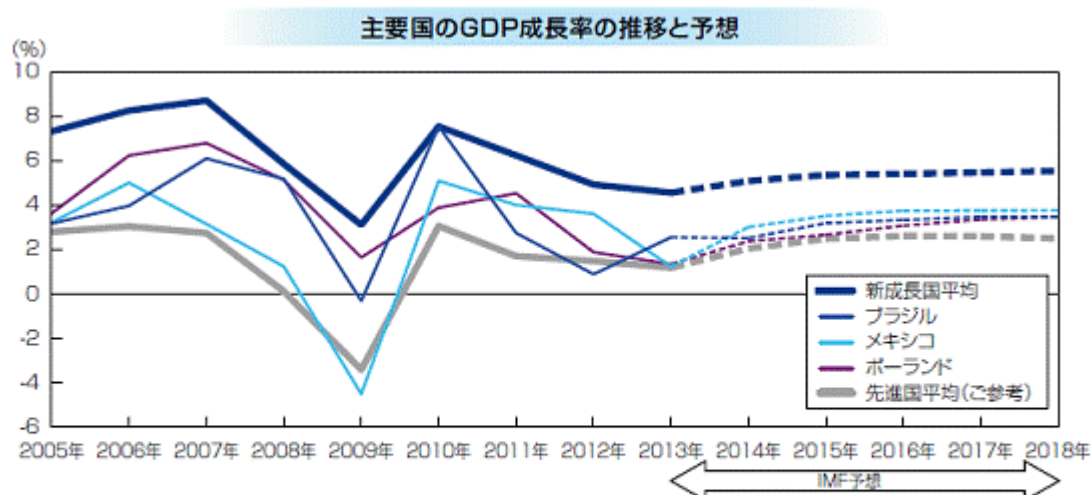
- 当ファンドにおいて新成長国とは、経済発展段階にあり、また今後さらに経済成長が見込めるとパインブリッジ・インベストメンツが判断した国（先進国を除く）および地域を指します。新成長国は、「エマージング諸国」や「新興国」と呼ばれることもあります。



※JPモルガン社のEMBIグローバルディバーシファイド指数およびGBI-EMブロードディバーシファイド指数の構成国。(2013年12月末現在)
 ※当ファンドは、上記の国以外に投資をすることがあります。また、上記の国のすべてに投資するとは限りません。

[世界の牽引役となる新成長国経済]

- 新成長国は、一般的に先進国よりも高い経済成長力を有しており、今後とも高い成長が持続すると期待されます。



出所：国際通貨基金(IMF)

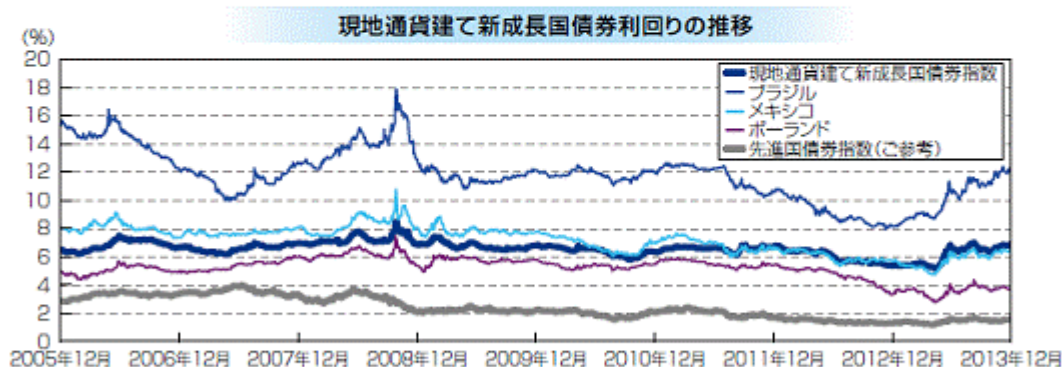
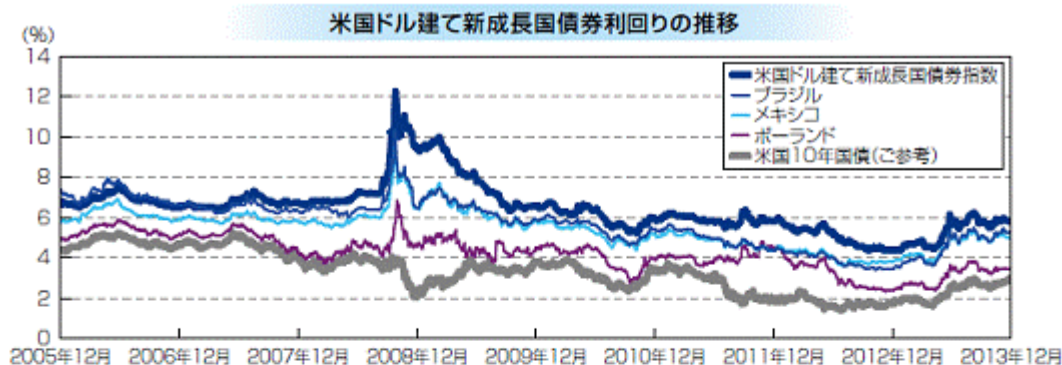
※先進国および新成長国の国分類はIMFの基準に基づいています。(2005年から2018年)

※上記の国はJPモルガン社のEMBIグローバルディバーシファイド指数とGBI-EMブロードディバーシファイド指数の2013年12月末時点の構成国を基に、パインブリッジ・インベストメンツが選定しています。

※上記は、当ファンドが投資対象とする新成長国のうち、主要な国についてのGDP成長率の推移を示したものであり、全ての投資対象国について示したものではありません。当ファンドは、上記の国以外に投資をすることがあります。また、上記の国のすべてに投資するとは限りません。

[新成長国債の魅力的な利回りと改善が進む信用力]

- 米国ドル建ての新成長国債や現地通貨建て新成長国債には、各国の成長ステージに応じて先進国債よりも高い利回りが存在しています。



出所: トムソン・ロイター・データストリーム(2005年12月末から2013年12月末)

※上記の米国ドル建て新成長国債券指数はJPモルガン社EMBIグローバルディバースィファイド指数の構成国別の最終利回り、現地通貨建て新成長国債券指数はJPモルガン社GBI-EMブロードディバースィファイド指数の構成国別の最終利回り、先進国債券指数はシティグループ世界国債インデックスの最終利回りを示しています。各利回りは指数に基づくため、償還年限は一定ではありません。

※上記は、当ファンドが投資対象とする新成長国のうち、主要な国についての利回り推移を示したものであり、全ての投資対象国について示したものではありません。当ファンドは、上記の国以外に投資することがあります。また、上記の国のすべてに投資するとは限りません。

- 新成長国の経済が成長・拡大することにより中長期的に財政状況が改善し、信用力の向上が期待できます。

主な新成長国の格付け推移

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
ブラジル	BBB-	BBB-	BBB-	BBB	BBB	BBB
メキシコ	BBB+	BBB	BBB	BBB	BBB	BBB+
中国	A+	A+	AA-	AA-	AA-	AA-
ポーランド	A-	A-	A-	A-	A-	A-
ロシア	BBB	BBB	BBB	BBB	BBB	BBB
インド	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-
南アフリカ	BBB+	BBB+	BBB+	BBB+	BBB	BBB

出所: ブルームバーグ(スタンダード&プアーズ・レーティング・サービス(S&P)の外貨建て長期債格付け)

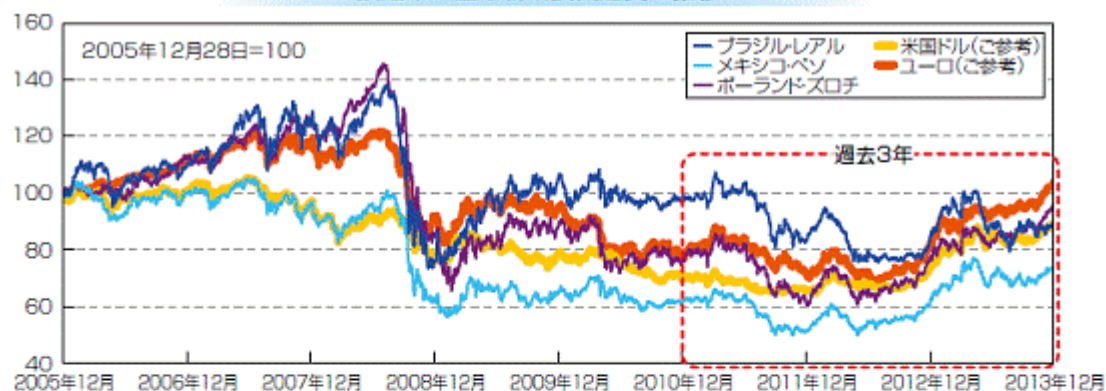
※上記の国はJPモルガン社のEMBIグローバルディバースィファイド指数とGBI-EMブロードディバースィファイド指数の2013年12月末時点の構成国を基に、パインブリッジ・インベストメンツが選定しています。

※上記は、当ファンドが投資対象とする新成長国のうち、主要な国についての格付け推移を示したものであり、全ての投資対象国について示したものではありません。当ファンドは、上記の国以外に投資することがあります。また、上記の国のすべてに投資するとは限りません。

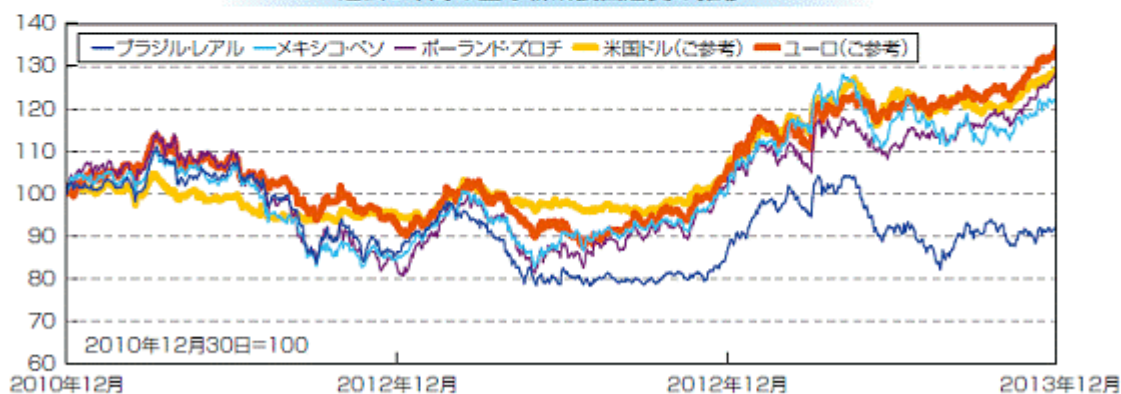
[新成長国経済の発展がもたらす効果]

- 新成長国の通貨は短期的には変動が大きくなる傾向があるものの、これらの国や地域の経済発展は中長期的に通貨の上昇をもたらすことが期待されます。過去の日本に照らし合わせてみると、同様の動きが見られました。

設定来の主な新成長国通貨の推移



過去3年間の主な新成長国通貨の推移

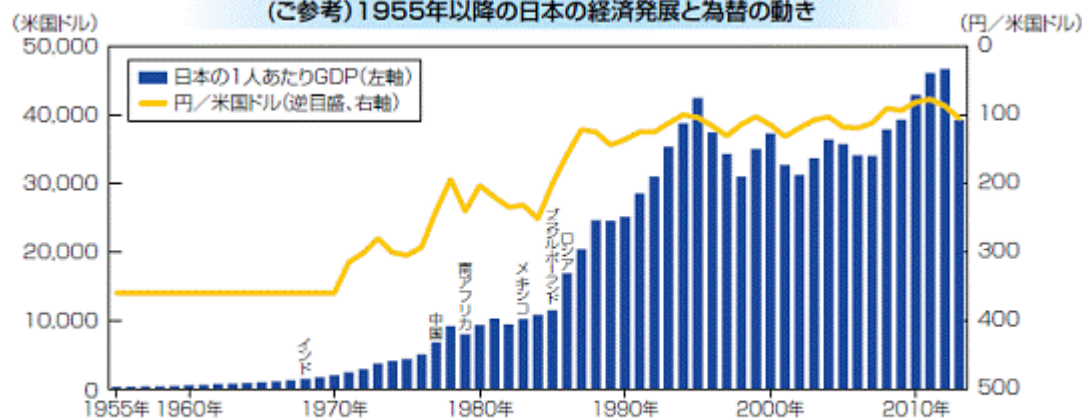


出所：三菱東京UFJ銀行(2013年12月末現在)

※三菱東京UFJ銀行の仲値を基にパインブリッジ・インベストメンツが作成。

※上記は、当ファンドが投資対象とする新成長国のうち、主要な国についての為替推移を示したものであり、全ての投資対象国について示したものではありません。当ファンドは、上記の国以外に投資することがあります。また、上記の国のすべてに投資するとは限りません。

(ご参考) 1955年以降の日本の経済発展と為替の動き



出所：ブルームバーグ、IMF

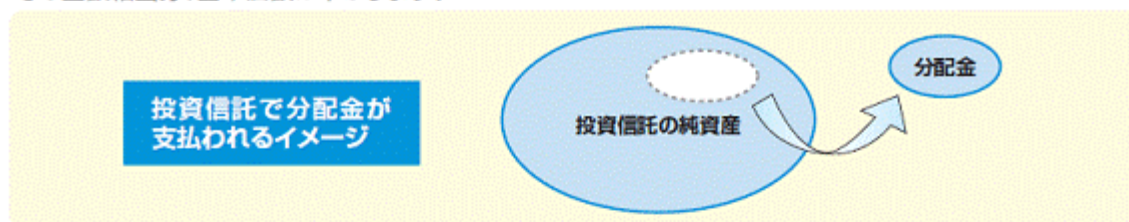
※「日本の1人あたりGDP」は、1955年から1979年はブルームバーグ、1980年以降はIMFのデータに基づきパインブリッジ・インベストメンツが作成。(2013年は予想)

※「円/米ドル」は、1955年12月末から2013年12月末までを示しています。

※上記の国名は、新成長国の2012年の1人あたりGDPを、過去の「日本の1人あたりGDP」水準の位置で示しています。

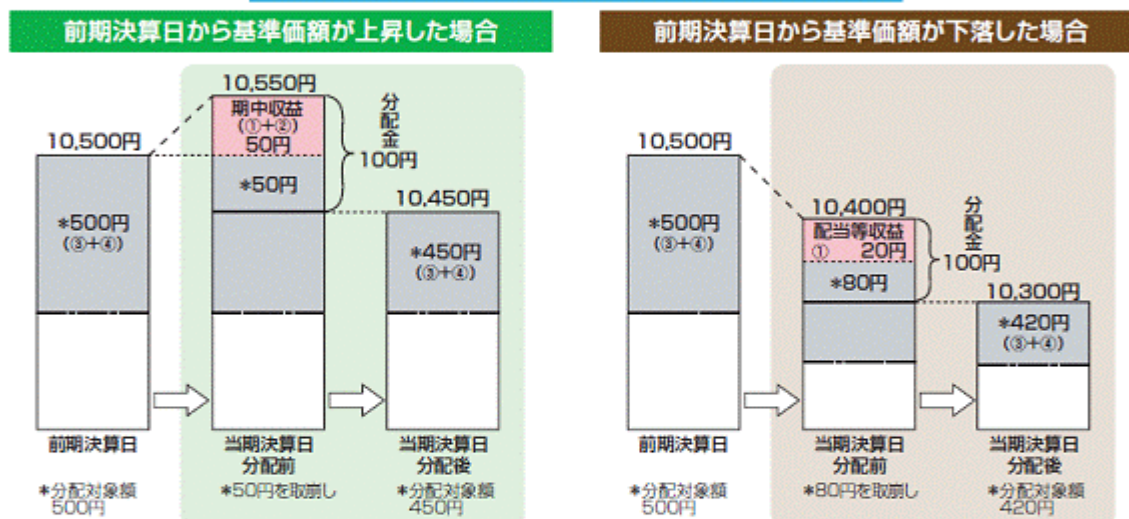
《収益分配金に関する留意事項》

- 収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



- 収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

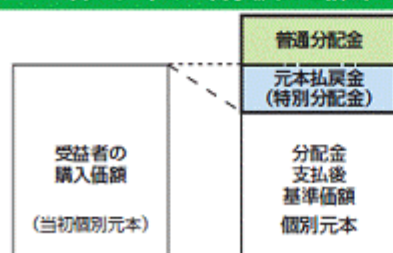


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんので留意下さい。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

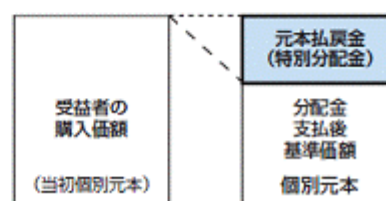


※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



④信託金限度額

3,000億円を限度として信託金を追加することができます。

ただし、委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

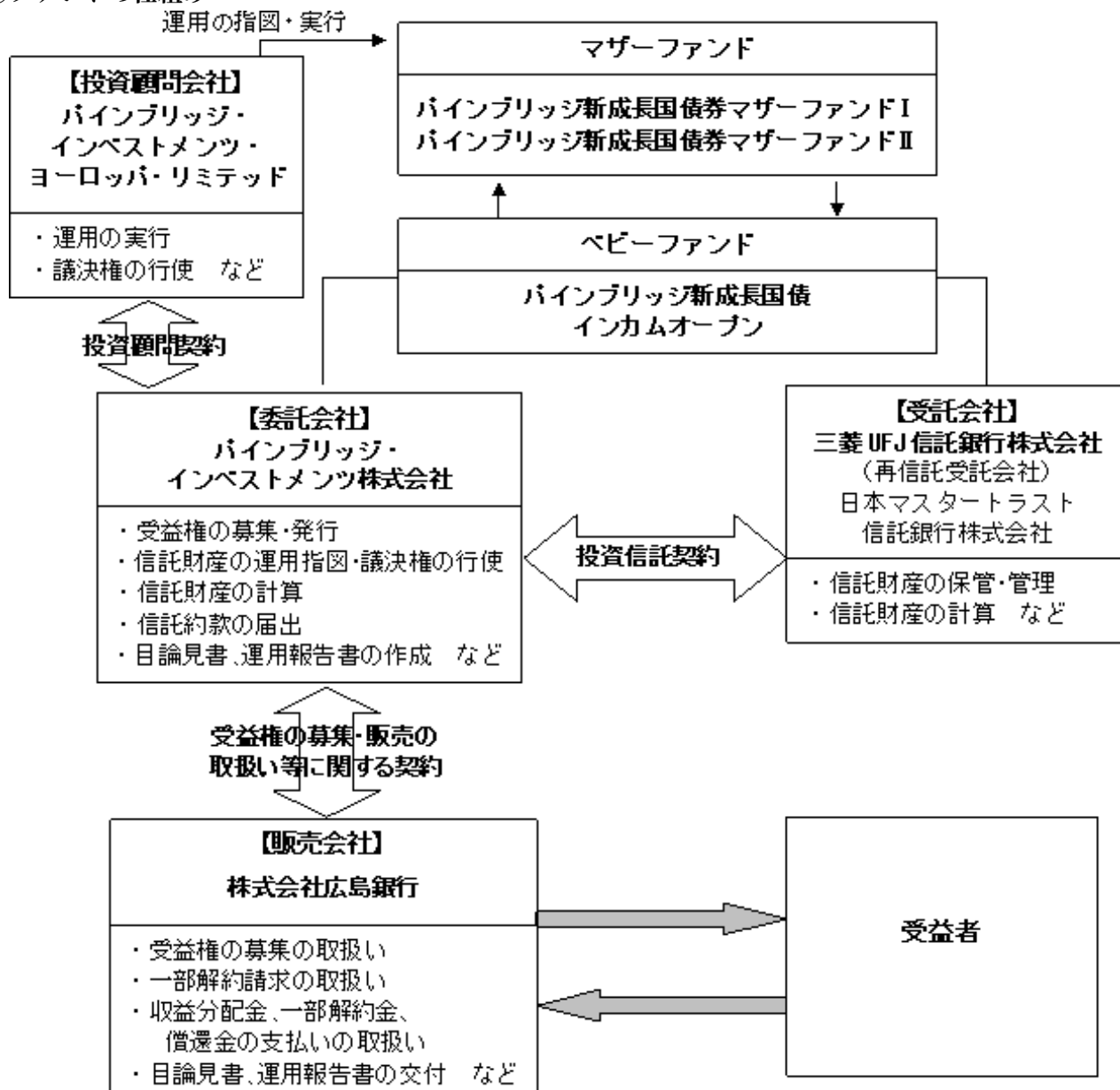
(2) 【ファンドの沿革】

平成17年12月28日 ファンドの信託契約締結、設定、運用開始

平成21年12月 1日 ファンドの名称変更（「AIG新成長国債インカムオープン」から「パインブリッジ新成長国債インカムオープン」に変更。）

（３）【ファンドの仕組み】

①ファンドの仕組み



※投資信託契約とは、投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社との間で規定したもので、信託財産の運用や管理・運営方法、委託会社と受託会社および受益者の権利義務関係、募集および換金方法等の取り決め等が定められています。

※受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約とは、委託会社と販売会社との間で締結された契約で、販売会社の行う受益権の募集、一部解約請求、収益分配金および償還金の支払い等の取扱い等が規定されています。

※投資顧問契約とは、委託会社と委託会社が信託財産の運用にかかる指図権を委託するものとの間に締結する契約で、信託財産の運用委託権限の範囲、議決権の行使、発注権限、運用状況の報告内容、報酬等が定められています。

②委託会社の概況

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社は、世界各地に拠点を持つ独立系資産運用グループ「PineBridge Investments」の一員として、主に個人投資家に対する投資信託業務と年金基金・機関投資家等に対する投資一任・助言業務を展開しております。

・資本金の額 500,000,000円（平成25年12月末日現在）

・会社の沿革

昭和61年11月 当社の前身であるエーアイジー・オーバーシーズ・ファイナンス・ジャパン株式会社設立。

- 昭和62年 1月 エイアイジー投資顧問株式会社に名称変更。
- 平成 9年 2月 エイミック投信投資顧問株式会社に名称変更。
- 平成13年 7月 エイアイジー投信投資顧問（AIG投信投資顧問）株式会社に名称変更。
- 平成14年 4月 株式会社千代田投資顧問と合併。
- 平成19年 4月 AIGインベストメントマネジメント投資顧問株式会社との事業統合。
- 平成20年 4月 AIGインベストメンツ株式会社に名称変更。
- 平成20年 5月 エイアイジー・ジャパン・セキュリティーズ・インク（AIG日本証券会社）との事業統合。
- 平成21年12月 パインブリッジ・インベストメンツ株式会社に名称変更。

・大株主の状況（平成25年12月末日現在）

株 主 名	住 所	持株数	持株比率
PineBridge Investment Holdings B.V.	Prins Bernhardplein 200 1097 JB Amsterdam The Netherlands	41,000株	100%

- ・当社が属するPineBridge Investmentsは、ニューヨークに本部を置くグローバルな資産運用グループです。世界各地の拠点で投資チーム・顧客サービスチームのプロフェッショナルが、世界中に広がるネットワークを活用し、資産の運用管理に専念しております。

2【投資方針】

（1）【投資方針】

①基本方針

主としてパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠを通じて、新成長国が発行した米国ドル建ておよびユーロ建ての国債に、またパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡを通じて、新成長国が発行した現地通貨建ての国債等に投資することにより、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

②運用方法

1. パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ、パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ（以下、総称して「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドへの投資を通じて、新成長国が発行した米国ドル建て、ユーロ建ての国債、および現地通貨建ての国債等に投資し、利子収入（インカム・ゲイン）の確保を目指しながら値上がり益（キャピタル・ゲイン）の追求も行います。
2. 米国ドル建て／ユーロ建て債と現地通貨建て債との利回り格差、および現地通貨の信頼性等を独自の手法で分析し、国別、通貨別アロケーションを決定します。
3. マザーファンドを通じて実質的に保有する外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません
4. 資金動向や市況動向等によっては、前記のような運用ができない場合があります。

（2）【投資対象】

①投資対象とする資産の種類

投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第22条、第23条、第24条に定めるものに限りません。）
 - ハ. 金銭債権（イ. ニ. に掲げるものに該当するものを除きます。以下同じ。）
 - ニ. 約束手形（金融商品取引法第2条第1項第15号に掲げるものを除きます。）
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形

②投資対象とする有価証券の範囲

委託会社は、信託金を、主としてパインブリッジ・インベストメンツ株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託であるパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ、パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡおよび次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. 国債証券
2. 地方債証券
3. 特別の法律により法人の発行する債券
4. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）
5. 転換社債の転換、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下、会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の行使により取得した株券
6. コマーシャル・ペーパー

7. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前記1. から6. の証券または証書の性質を有するもの
8. 投資信託証券（外国の者が発行する証券で、投資信託証券の性質を有するものを含まず。ただし、クローズド・エンド型の会社型外国投資信託証券を除きます。以下同じ。）
9. 外国の者の発行する証券または証書で、銀行業を営む者その他の金銭の貸付けを業として行う者の貸付債権を信託する信託の受益権またはこれに類する権利を表示するもの（以下「外国貸付債権信託受益証券」といいます。）
10. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
11. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
12. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
13. 銀行、信託会社その他政令で定める金融機関または主として住宅の取得に必要な長期資金の貸付けを業として行う者の貸付債権を信託する信託の受益権および外国法人に対する権利で同様の権利の性質を有するもの（以下「貸付債権信託受益権」といいます。）であって、金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
14. 外国の者に対する権利で前記13. の有価証券の性質を有するもの。

なお、前記5. の証券および7. の証券または証書のうち5. の証券の性質を有するものを以下「株式」といい、1. から4. までの証券および7. の証券のうち1. から4. までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

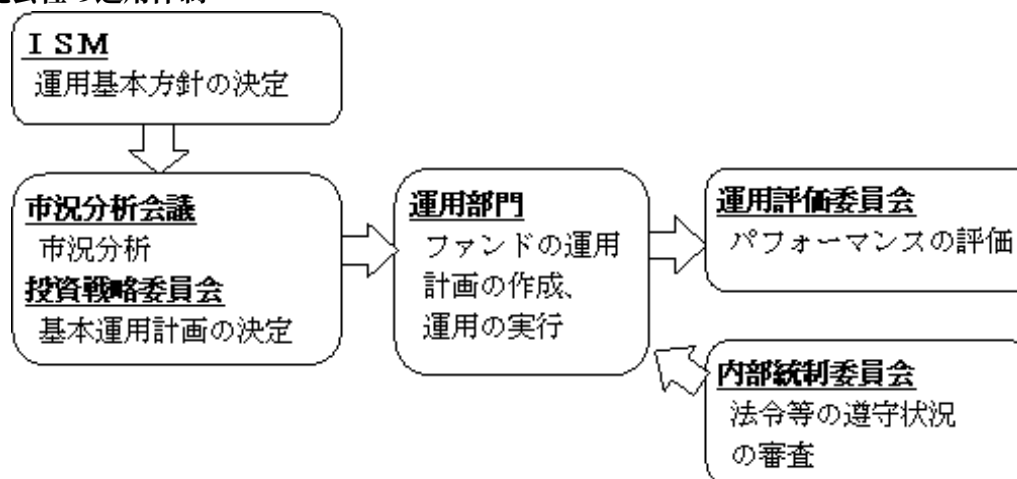
- ③委託会社は、信託金を、前記②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前記5. の権利の性質を有するもの

- ④前記②の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記③1. から6. に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

（3）【運用体制】

①委託会社の運用体制



1. 運用基本方針の決定

- ・世界中の運用拠点の主要メンバーにより組織されているインベストメント・ストラテジー・ミーティング（ISM：Investment Strategy Meeting）で経済環境、投資戦略、市場リスク分析、各地域

の景気サイクルなどの詳細な分析が行われ、株式・債券を中心にその他代替資産を含むPineBridgeとしての運用戦略の概要が決定されます。

2. 運用計画の決定と運用の実行

- ・月次で市況分析会議を行い、ISMの議論・決定を参考に、ハウスビュー（内外経済見通し、内外債券見通し、内外株式見通し、為替見通し）について議論を行います。
- ・月1回の投資戦略委員会で、市況分析会議で議論されたハウスビューをベースに月次基本運用計画およびその前提となる見通し・投資方針（デュレーション・イールドカーブ・業種配分方針、為替見通し、国内株式市場の見通し、アセットアロケーション方針等）が決定されます。
- ・運用部門（14名）のファンドマネジャーは、月次基本運用計画に基づき、ファンド毎の月次運用計画を作成し、具体的なポートフォリオを構築、運用を実行します。

3. パフォーマンス評価とリスク管理

- ・運用業務部（11名）において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。
- ・法務コンプライアンス部（4名）において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。
- ・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。

4. ファンドの関係法人に対する管理体制

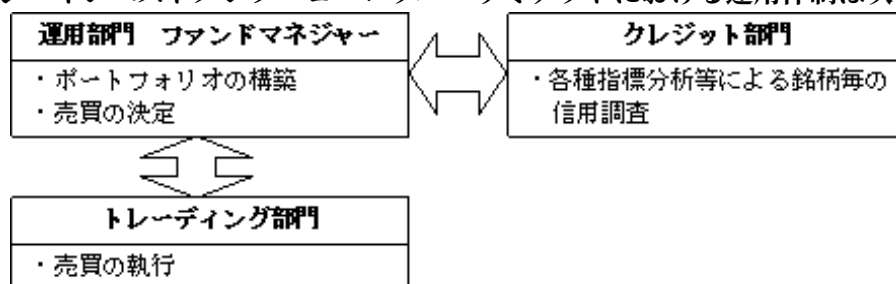
- ・ファンドの受託会社に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などの信託財産の管理業務を通じて、信託事務の正確性・迅速性・システム対応力等を総合的に検証しています。また、受託会社より、内部統制の有効性についての報告書を受取っています。
- ・ファンドの運用に関する権限の委託先に対しては、担当部署において外部委託先が行った日々の約定の確認を行うとともに、法務コンプライアンス部において運用状況のモニタリングを行い、必要に応じて改善を求めます。

※当社では、運用の適正化および投資者保護を目的として、社内規程等で信託財産の運用にあたって必要な事項を定めております。

※前記の運用体制等は平成25年12月末日現在のものであり、今後変更することがあります。

②投資顧問会社の運用体制

当ファンドが投資する各マザーファンドの外貨建て資産の運用に関する権限の委託先である、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドにおける運用体制は次の通りです。



※前記運用体制等は、今後変更することがあります。

（４）【分配方針】

①毎決算時（１・３・５・７・９・１１月の２５日、休業日の場合は翌営業日）に、原則として次のとおり収益分配を行う方針です。

- 1) 分配対象額は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額）の全額とします。
- 2) 分配金額は、基準価額の水準、市況動向、運用状況等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

3) 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

②信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- 1) 信託財産に属する配当等収益（配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額をいいます。以下同じ。）とみなし配当等収益との合計額から諸経費、信託報酬および当該信託報酬に対する消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
- 2) 売買損益に評価損益を加減して得た額からみなし配当等収益を控除して得た売買益は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に対する消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。
- 3) 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

③収益分配金の支払い

- 1) 収益分配金は、毎決算日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払います。
- 2) 前記1)の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は、原則として、毎決算日の翌営業日に、収益分配金を販売会社に交付します。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付けを行います。当該売付けにより増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。
- 3) 前記1)に規定する収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。
- 4) 受託会社は、収益分配金については原則として毎決算日の翌営業日までに、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払い込みます。受託会社は、委託会社の指定する預金口座等に収益分配金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(5) 【投資制限】

＜信託約款による投資制限＞

- ①株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への実質投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ②投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ③同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ④同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ⑤外貨建て資産への実質投資割合には、制限を設けません。
- ⑥委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。）に上場されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

⑦先物取引等の指図範囲

- 1) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに

掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）ならびに有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。（以下同じ。）

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券（以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
 2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額（組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額）に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券および組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに（2）投資対象③に掲げる金融商品で運用している額の範囲とします。
- 2）委託会社は、信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の売予約と合せてヘッジの対象とする外貨建て資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属するヘッジの対象とする外貨建て資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占めるヘッジの対象とする外貨建て資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額の範囲内とします。
 2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の買予約と合せて、外貨建て有価証券の買付代金等実需の範囲内とします。
- 3）委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする金利商品（信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに（2）投資対象③に掲げる金融商品で運用しているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
 2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに（2）投資対象③に掲げる金融商品で運用している額（以下「金融商品運用額等」といいます。）の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建てで、信託財産の外貨建て資産組入可能額（約款上の組入可能額から保有外貨建て資産の時価総額を差し引いた額。以下同じ。）に信託財産が限月までに受取る外貨建て組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券および外貨建て組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等より少ない場合には外貨建て資産組入可能額に信託財産が限月までに受取る外貨建て組入有価証券にかかる利払金および償還金等を加えた額を限度とします。

⑧スワップ取引の運用指図

- 1）委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- 2）スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

- 3) スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額（以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。）が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、すみやかにその超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。
- 4) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- 5) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

⑨金利先渡し取引および為替先渡し取引の運用指図

- 1) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡し取引および為替先渡し取引を行うことの指図をすることができます。
- 2) 金利先渡し取引および為替先渡し取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として、信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- 3) 金利先渡し取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかる金利先渡し取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産にかかる金利先渡し取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額（以下「金利先渡し取引の想定元本の合計額」といいます。）が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、金利先渡し取引の想定元本の合計額が純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社はすみやかにその超える額に相当する金利先渡し取引の一部の解約を指図するものとします。
- 4) 為替先渡し取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかる為替先渡し取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産にかかる為替先渡し取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額（以下「為替先渡し取引の想定元本の合計額」といいます。）が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、為替先渡し取引の想定元本の合計額が純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社はすみやかにその超える額に相当する為替先渡し取引の一部の解約を指図するものとします。
- 5) 金利先渡し取引および為替先渡し取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- 6) 委託会社は、金利先渡し取引および為替先渡し取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

⑩有価証券の貸付の指図および範囲

- 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- 2) 前記1) に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社はすみやかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- 3) 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

⑪特別の場合の外貨建て有価証券への投資制限

外貨建て有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

⑫外国為替予約取引の指図

委託会社は、信託財産に属する外貨建て資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建て資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額について、当該外貨建て資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

⑬資金の借入れ

- 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、信託財産において一部解約金の支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- 2) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- 3) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- 4) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

<法令等による投資制限>

①同一法人の発行する株式への投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図しないものとします。

②デリバティブ取引にかかる投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

（ご参考）マザーファンドの概要

《1》パインブリッジ新成長国債券マザーファンドI

1. 基本方針

この投資信託は、主として新成長国が発行した米国ドル建て、ユーロ建ての国債に投資し、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

2. 運用方法

（1）投資対象

原則として、新成長国が発行した米国ドル建て、ユーロ建ての国債を主要投資対象とします。

（2）投資態度

- ①主に新成長国が発行した国債に投資し高水準の利子収入（インカム・ゲイン）の確保を目指して運用します。
- ②組入対象とする新成長国債は、米国ドル建てユーロ建てで発行されている国債に限定します。

- ③ポートフォリオの構築にあたっては、当該発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性、発行条件などの各種分析に基づき、割安と判断される銘柄を選定して投資します。
- ④投資対象となる新成長国の分散を図り、カントリーリスクをコントロールします。
- ⑤組入外貨建て資産に対しては、原則として為替ヘッジを行いません。
- ⑥運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドに外貨建て資産の運用に関する権限を委託します。
- ⑦資金動向や市況動向等によっては、前記のような運用が行えない場合があります

（３）投資制限

- ①株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ②投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ③同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ④同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ⑤外貨建て資産への投資割合には、制限を設けません。
- ⑥有価証券先物取引等は、信託約款に定める範囲で行います。
- ⑦スワップ取引は、信託約款に定める範囲で行います。
- ⑧金利先渡し取引および為替先渡し取引は、信託約款に定める範囲で行います。

《２》パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ

１．基本方針

この投資信託は、主として新成長国が発行した現地通貨建て国債等に投資し、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

２．運用方法

（１）投資対象

新成長国が発行した現地通貨建ての国債、あるいはそれと同等の価値を有する現地通貨建て国債連動債券（クレジット・リンク・ノート）を主要投資対象とします。

（２）投資態度

- ①主に新成長国が発行した国債等に投資し高水準の利子収入（インカム・ゲイン）の確保を目指して運用します。
- ②組入対象とする新成長国債等は、主として現地通貨建てで発行されている国債、あるいはそれと同等の価値を有する現地通貨建て国債連動債券（クレジット・リンク・ノート）とします。
- ③ポートフォリオの構築にあたっては、当該発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性、発行条件などの各種分析に基づき、割安と判断される銘柄を選定して投資します。
- ④投資対象となる新成長国の分散を図り、カントリーリスクをコントロールします。
- ⑤組入外貨建て資産に対しては、原則として為替ヘッジを行いません。
- ⑥運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドに外貨建て資産の運用に関する権限を委託します。
- ⑦資金動向や市況動向等によっては、前記のような運用が行えない場合があります。

（３）投資制限

- ①株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ②投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ③同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。

- ④同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ⑤外貨建て資産への投資割合には、制限を設けません。
- ⑥有価証券先物取引等は、信託約款に定める範囲で行います。
- ⑦スワップ取引は、信託約款に定める範囲で行います。
- ⑧金利先渡し取引および為替先渡し取引は、信託約款に定める範囲で行います。

3【投資リスク】

（1）当ファンドのリスク

当ファンドは、主として2つのマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に新成長国債等の値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります。）を主要投資対象としますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは預貯金とは異なり、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属しますので、お申込みにあたりましては、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、お申込みください。

当ファンドが有する主なリスク要因は、以下の通りです。

①価格変動リスク

当ファンドが実質的に投資する債券は、一般に、経済・社会情勢、発行体の信用状況、経営・財務状況、企業業績ならびに市場の需給等の影響を受け、変動します。組入銘柄の価格の下落は、当ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

②信用リスク

債券の発行体の財務状況の悪化等の理由による価格の下落、利息・元本・償還金の支払不能または債務不履行（デフォルト）等の影響を受け、基準価額が下落することがあります。当ファンドの組入対象となる新成長国の国債等は、先進国などの格付けが上位の国と比較して高い利回りを提供する一方、債券価格の変動がより大きく、支払遅延またはデフォルトするリスクが相対的に高いと考えられます。国債の発行国の信用力は一般的に格付会社により評価されますが、格付けが低いほど債務不履行の可能性が高いことを意味します。発行国の財務状況の悪化、社会情勢の変化等により格付けが低下することにより、債券価格が大きく下落することがあります。

③金利変動リスク

金利変動により債券価格が変動するリスクをいいます。一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落し、ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

④為替変動リスク

当ファンドは外貨建ての債券に投資しますので、為替変動リスクを伴います。一般的に外国為替相場は、金利動向、政治・経済情勢、需給その他様々な要因により変動します。この影響を受けて外貨建て資産の価格が変動し、基準価額が下落することがあります。また当ファンドは、米国ドル建て／ユーロ建て債券以外に現地通貨建て債券にも投資することから、相対的に高い為替変動リスクを有します。

⑤新成長国のリスク（カントリーリスク）

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。また、新成長国債券投資には、先進国と比較して政治・経済および社会情勢の変化が債券価格に及ぼす影響が相対的に高い可能性があります。発行国における経済危機、政治不安、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結等の規制の導入、自然災害、戦争などの際には、通常の運用を行えない場合があり、これらの事象により基準価額に大きな影響を与える可能性があります。さらに、当ファンドは、現地通貨建て債券にも投資することから、通貨交換が行えなくなるリスクや流動性リスクを有します。したがって、当ファンドが投資対象とする新成長国の市場は、市場環境や社会情勢の著しい悪化を受けた場合等には、投資資金を日本円に戻すのに日数がかかる場合があり、換金代金の支払日が遅延する可能性があります。

⑥流動性リスク

組入有価証券等を売買しようとする場合に、当該有価証券等の需給状況により、希望する時期および価格で売買できないリスクをいいます。この影響を受け基準価額が下落する要因になることがあります。なお、当ファンドは新成長国債等に投資することから、先進国債に比べ相対的に高い流動性リスクを有します。

⑦その他のリスク・留意点

1) カウンターパーティーリスク

当ファンドでは、証券取引、為替取引、スワップ取引等の相対取引を行うことがあります。これには取引相手方の決済不履行リスクが伴います。

2) 有価証券先物等に伴うリスク

当ファンドでは、有価証券先物取引等を利用することがありますので、このような場合にはファンドの基準価額は有価証券先物等の価格変動の影響を受けます。

3) 解約によるファンドの資金流出に伴うリスク

解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券を大量に売却（先物取引については反対売買）しなければならないことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって基準価額が大きく下落することがあります。

4) 資産規模に関するリスク

当ファンドの資産規模によっては、運用方針に基づく運用が効率的にできない場合があります。

5) 収益分配に関わるリスク

当ファンドは、毎決算期に収益分配方針にしたがい分配を行います。ただし、委託会社の判断により、分配が行われないこともあります。また、基準価額が元本を下回っていても、分配が行われる場合があります。

6) 繰上償還に関わる留意点

当ファンドは、残存口数が5億口を下回った場合には、繰上償還されることがあります。

7) 取得申込、解約請求等に関する留意点

当ファンドは、ロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合には、取得申込および解約請求の受付はできません。なお、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場封鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、委託会社の判断で取得申込および解約請求の受付を中止することがあります。また、すでに受付けた取得申込および解約請求を取消すことがあります。

8) ファミリーファンド方式に関する留意点

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金移動があり、その結果、マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

9) クレジット・リンク・ノート（CLN）に関する留意点

クレジット・リンク・ノートは、信用リスクを別の債券の信用に結びつけた債券です。当ファンドが投資対象とするクレジット・リンク・ノートは、現地通貨建て国債に投資するのと同様の投資効果がありますが、同様のリスクも負うこととなります。

10) 収益分配金に関する留意点

収益分配は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて行う場合があります。したがって、収益分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。また、投資者の個別元本の状況によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。なお、収益分配金はファンドの純資産から支払われますので、分配金の支払いは純資産総額の減少につながり、基準価額の下落要因となります。計算期間中の運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

11) その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

(2) 投資リスクに対する管理体制

①委託会社におけるリスク管理体制は、次の通りです。

1) 運用業務部

運用資産にかかる運用リスクの低減および顕在化の防止に努めます。

また、運用実績の分析および評価を行い内部統制委員会に上程します。

2) 法務コンプライアンス部

運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。

また、適正なるコンプライアンスを実現するための施策を行います。

3) 内部統制委員会

月1回開催、法務コンプライアンス部の報告に基づき、諸法令等の遵守状況についての審議および体制整備等の適正な運用に資する対応を図ります。

4) 運用評価委員会

月1回以上開催、運用実績の分析および評価を総合的に審議し、必要に応じて運用改善のための対応を図ります。

②マザーファンドの投資顧問会社におけるリスク管理体制は、次の通りです。

1) リスク管理部門においては、運用ガイドラインの遵守状況をモニタリングし、問題点が発生した場合は、ファンドマネジャーに是正勧告を行うとともに売買監視委員会に報告します。

2) 売買監視委員会は、四半期ごとにチェック状況等につき審議します。

3) パフォーマンス評価部門において、運用実績の評価分析を行い運用に反映します。

※前記のリスク管理体制等は、今後変更することがあります。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に対し2.1%（税抜2.0%）^{*}の率を乗じて得た額を上限として、販売会社が独自に定めるものとします。（申込手数料は、当該手数料にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する額を含みます。以下同じ。）

なお、収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

※消費税率が8%になった場合は、2.16%（税抜2.0%）となります。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

(2)【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

(3)【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.68%（税抜年1.60%）^{*}の率を乗じて得た金額とします。委託会社、受託会社および各販売会社の配分についての内訳は次の通りです。（信託報酬には、当該報酬にかかる消費税等に相当する額を含みます。以下同じ。）

※消費税率が8%になった場合は、年1.728%（税抜年1.60%）となります。なお、下記の内訳についても相応分上がります。

	各販売会社の純資産残高		
	50億円以下の部分	50億円超200億円以下の部分	200億円超の部分
信託報酬	1.68%（税抜1.60%）		

委託会社	0.8715% (税抜0.83%)	0.8190% (税抜0.78%)	0.7665% (税抜0.73%)
販売会社	0.7350% (税抜0.70%)	0.7875% (税抜0.75%)	0.8400% (税抜0.80%)
受託会社	0.0735% (税抜0.07%)	0.0735% (税抜0.07%)	0.0735% (税抜0.07%)

委託会社の受取る報酬には、マザーファンドの運用指図の権限を委託する投資顧問会社への報酬、信託財産の計算に関する委託会社の事務代行を行う会社への事務代行手数料、信託財産の財務諸表の監査を行う監査法人に対する費用および目論見書・運用報告書の作成等に要する費用が含まれます。信託報酬は、毎決算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払うものとします。

マザーファンドの運用にかかる権限の委託先への報酬は、年率0.40%以内の率を乗じて得た額とし、マザーファンドの毎計算期間の末日において、委託会社が受取る報酬から支払うものとします。

（４）【その他の手数料等】

- ①信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息を信託財産中から支払います。
- ②証券取引に伴う手数料等、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料は、信託財産が負担します。このほか、売買委託手数料に対する消費税等相当額および先物取引・オプション取引等に要する費用についても信託財産が負担します。
- ③信託財産に属する有価証券等の保管を外国の金融機関に委任する場合の保管費用についても信託財産が負担します。
- ④信託財産において一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入の指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産から支払われます。

※その他の手数料等は、事前に計算できないため、その総額や計算方法を記載しておりません。

前記（１）から（４）の費用・手数料等には、保有期間に応じて異なるものや、事前に計算できないものが含まれているため、その合計額、上限額、計算方法等を表示することはできません。

（５）【課税上の取扱い】

当ファンドは課税上は株式投資信託として取扱われます。

①個人の受益者に対する課税

普通分配金については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告の必要はありません。なお、確定申告をして、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することも可能です。

一部解約時および償還時の差益については、申告分離課税が適用され、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率となります。

②法人の受益者に対する課税

普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%の所得税が源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。

※原則として、益金不算入制度の適用はありません。

※少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

＊１ 個別元本について

- ①追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- ②受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- ③同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店等毎に、分配金受取りコースと分配金再投資コースの両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。
- ④受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

＊２ 元本払戻金（特別分配金）について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、

- ①当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。
- ②当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

前記は平成26年1月1日現在のものですので、税法が改正された場合等においては、税率等の課税上の取扱いが変更になることがあります。
税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご相談されることをお勧めします。

5【運用状況】

（1）【投資状況】

（平成25年12月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	4,214,084,860	98.70
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		55,347,792	1.30
合計（純資産総額）		4,269,432,652	100.00

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。

（2）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

1. 組入上位銘柄

（平成25年12月30日現在）

国／地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
日本	親投資信託 受益証券	パインブリッジ 新成長国債券 マザーファンドⅡ	1,609,028,831	1.5392	2,476,617,177	1.5681	2,523,118,109	59.10
日本	親投資信託 受益証券	パインブリッジ 新成長国債券 マザーファンドⅠ	987,771,921	1.6512	1,631,008,996	1.7119	1,690,966,751	39.61

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価比率です。

2. 種類別及び業種別投資比率

（平成25年12月30日現在）

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	98.70
合計	98.70

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（3）【運用実績】

①【純資産の推移】

	純資産総額（円）		基準価額（円）	
第1特定期間末 （平成18年5月25日）	（分配付）	4,202,981,156	（分配付）	9,477
	（分配落）	4,087,780,196	（分配落）	9,187
第2特定期間末 （平成18年11月27日）	（分配付）	6,985,953,932	（分配付）	10,341
	（分配落）	6,745,076,991	（分配落）	9,921
第3特定期間末 （平成19年5月25日）	（分配付）	9,353,302,531	（分配付）	11,348
	（分配落）	9,024,570,200	（分配落）	10,928

第4特定期間末 (平成19年11月26日)	(分配付) (分配落)	9,626,330,919 9,244,653,908	(分配付) (分配落)	9,866 9,446
第5特定期間末 (平成20年5月26日)	(分配付) (分配落)	10,505,612,264 10,060,648,434	(分配付) (分配落)	9,389 8,969
第6特定期間末 (平成20年11月25日)	(分配付) (分配落)	8,789,115,213 8,221,868,673	(分配付) (分配落)	6,328 5,908
第7特定期間末 (平成21年5月25日)	(分配付) (分配落)	10,710,586,247 10,098,635,317	(分配付) (分配落)	7,042 6,622
第8特定期間末 (平成21年11月25日)	(分配付) (分配落)	15,545,577,023 14,828,615,340	(分配付) (分配落)	7,132 6,752
第9特定期間末 (平成22年5月25日)	(分配付) (分配落)	14,191,502,434 13,557,063,007	(分配付) (分配落)	6,922 6,622
第10特定期間末 (平成22年11月25日)	(分配付) (分配落)	12,286,516,558 11,830,735,397	(分配付) (分配落)	6,842 6,602
第11特定期間末 (平成23年5月25日)	(分配付) (分配落)	9,405,876,837 9,174,405,244	(分配付) (分配落)	6,626 6,476
第12特定期間末 (平成23年11月25日)	(分配付) (分配落)	6,877,468,017 6,690,861,526	(分配付) (分配落)	5,810 5,660
第13特定期間末 (平成24年5月25日)	(分配付) (分配落)	6,122,696,152 5,964,228,726	(分配付) (分配落)	6,090 5,940
第14特定期間末 (平成24年11月26日)	(分配付) (分配落)	5,783,379,608 5,647,804,002	(分配付) (分配落)	6,730 6,580
第15特定期間末 (平成25年5月27日)	(分配付) (分配落)	5,713,899,852 5,600,974,970	(分配付) (分配落)	8,046 7,896
第16特定期間末 (平成25年11月25日)	(分配付) (分配落)	4,544,530,476 4,448,224,606	(分配付) (分配落)	7,315 7,165
平成24年 12月末日		5,809,257,964		7,049
平成25年 1月末日		5,820,080,735		7,353
2月末日		5,730,931,261		7,418
3月末日		5,544,133,225		7,378
4月末日		5,755,297,123		7,899
5月末日		5,455,675,763		7,730
6月末日		4,883,588,388		7,085
7月末日		4,646,396,518		7,065
8月末日		4,421,784,085		6,800
9月末日		4,440,532,576		6,933
10月末日		4,562,383,326		7,226
11月末日		4,415,918,964		7,186
12月末日		4,269,432,652		7,337

(注) 特定期間末の純資産総額（分配付）および基準価額（分配付）は、当該特定期間末における純資産総額（分配落）および基準価額（分配落）の金額に、当該特定期間中に支払われた収益分配金の累計額を加算した額を表示しております。

②【分配の推移】

期 間		1 万口当たりの分配金
第1特定期間	自 平成17年12月28日	290円
	至 平成18年 5月25日	
第2特定期間	自 平成18年 5月26日	420円
	至 平成18年11月27日	
第3特定期間	自 平成18年11月28日	420円
	至 平成19年 5月25日	
第4特定期間	自 平成19年 5月26日	420円
	至 平成19年11月26日	
第5特定期間	自 平成19年11月27日	420円
	至 平成20年 5月26日	
第6特定期間	自 平成20年 5月27日	420円
	至 平成20年11月25日	
第7特定期間	自 平成20年11月26日	420円
	至 平成21年 5月25日	
第8特定期間	自 平成21年 5月26日	380円
	至 平成21年11月25日	
第9特定期間	自 平成21年11月26日	300円
	至 平成22年 5月25日	
第10特定期間	自 平成22年 5月26日	240円
	至 平成22年11月25日	
第11特定期間	自 平成22年11月26日	150円
	至 平成23年 5月25日	
第12特定期間	自 平成23年 5月26日	150円
	至 平成23年11月25日	
第13特定期間	自 平成23年11月26日	150円
	至 平成24年 5月25日	
第14特定期間	自 平成24年 5月26日	150円
	至 平成24年11月26日	
第15特定期間	自 平成24年11月27日	150円
	至 平成25年 5月27日	
第16特定期間	自 平成25年 5月28日	150円
	至 平成25年11月25日	

③【収益率の推移】

期間		収 益 率
第1特定期間	自 平成17年12月28日	△ 5.2%
	至 平成18年 5月25日	
第2特定期間	自 平成18年 5月26日	12.6%
	至 平成18年11月27日	
第3特定期間	自 平成18年11月28日	14.4%
	至 平成19年 5月25日	

第4特定期間	自 平成19年 5月26日	△ 9.7%
	至 平成19年11月26日	
第5特定期間	自 平成19年11月27日	△ 0.6%
	至 平成20年 5月26日	
第6特定期間	自 平成20年 5月27日	△29.4%
	至 平成20年11月25日	
第7特定期間	自 平成20年11月26日	19.2%
	至 平成21年 5月25日	
第8特定期間	自 平成21年 5月26日	7.7%
	至 平成21年11月25日	
第9特定期間	自 平成21年11月26日	2.5%
	至 平成22年 5月25日	
第10特定期間	自 平成22年 5月26日	3.3%
	至 平成22年11月25日	
第11特定期間	自 平成22年11月26日	0.4%
	至 平成23年 5月25日	
第12特定期間	自 平成23年 5月26日	△10.3%
	至 平成23年11月25日	
第13特定期間	自 平成23年11月26日	7.6%
	至 平成24年 5月25日	
第14特定期間	自 平成24年 5月26日	13.3%
	至 平成24年11月26日	
第15特定期間	自 平成24年11月27日	22.3%
	至 平成25年 5月27日	
第16特定期間	自 平成25年 5月28日	△ 7.4%
	至 平成25年11月25日	

（注）収益率は次の計算式により算出しております。ただし、第1特定期間については前特定期間末分配落基準価額の代わりに、1万口当たり当初元本額（10,000円）を用いております。

収益率＝（当特定期間末分配落基準価額＋当特定期間中分配金累計額－前特定期間末分配落基準価額）÷
 前特定期間末分配落基準価額×100

（４）【設定及び解約の実績】

期 間		設定口数	解約口数
第1特定期間	自 平成17年12月28日	4,499,480,019	50,016,302
	至 平成18年 5月25日		
第2特定期間	自 平成18年 5月26日	2,552,941,330	203,758,042
	至 平成18年11月27日		
第3特定期間	自 平成18年11月28日	2,873,761,013	1,414,105,309
	至 平成19年 5月25日		
第4特定期間	自 平成19年 5月26日	2,160,211,272	631,994,266
	至 平成19年11月26日		
第5特定期間	自 平成19年11月27日	1,965,652,413	534,969,839
	至 平成20年 5月26日		

第6特定期間	自 平成20年 5月27日	3,555,722,085	855,854,703
	至 平成20年11月25日		
第7特定期間	自 平成20年11月26日	1,579,376,351	246,194,620
	至 平成21年 5月25日		
第8特定期間	自 平成21年 5月26日	7,190,155,026	479,214,712
	至 平成21年11月25日		
第9特定期間	自 平成21年11月26日	1,234,428,785	2,724,126,965
	至 平成22年 5月25日		
第10特定期間	自 平成22年 5月26日	217,282,577	2,769,951,526
	至 平成22年11月25日		
第11特定期間	自 平成22年11月26日	152,240,738	3,904,429,466
	至 平成23年 5月25日		
第12特定期間	自 平成23年 5月26日	51,579,750	2,397,860,376
	至 平成23年11月25日		
第13特定期間	自 平成23年11月26日	44,751,662	1,824,514,562
	至 平成24年 5月25日		
第14特定期間	自 平成24年 5月26日	20,679,783	1,477,771,353
	至 平成24年11月26日		
第15特定期間	自 平成24年11月27日	31,608,573	1,521,647,631
	至 平成25年 5月27日		
第16特定期間	自 平成25年 5月28日	19,492,002	904,720,134
	至 平成25年11月25日		

（注1）上記は、すべて本邦内における設定、解約の実績口数です。

（注2）第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

（ご参考）

《1》パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ

（1）投資状況

（平成25年12月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	トルコ	1,984,087,947	17.90
	ベネズエラ	925,387,434	8.35
	ロシア	676,679,731	6.10
	アルゼンチン	664,340,322	5.99
	南アフリカ	634,344,517	5.72
	フィリピン	590,447,475	5.33
	エルサルバドル	496,281,510	4.48
	アンゴラ共和国	366,493,725	3.31
	エジプト	340,162,033	3.07
	ジャマイカ	335,203,434	3.02
	ハンガリー	332,660,899	3.00
	ベリーズ	331,177,536	2.99
	ベラルーシ	328,252,963	2.96
	コートジボアール	320,651,709	2.89

	ザンビア	285,153,723	2.57
	セルビア	185,100,372	1.67
	ルーマニア	143,762,499	1.30
	ガーナ	120,776,940	1.09
	ウクライナ	98,873,420	0.89
	モンゴル国	96,221,070	0.87
	エクアドル	77,264,043	0.70
	ドミニカ共和国	72,800,249	0.66
	アルメニア共和国	49,409,466	0.45
	ホンジュラス	42,682,950	0.39
	トリニダードトバゴ	34,669,094	0.31
	ボリビア	30,036,150	0.27
	小 計	9,562,921,211	86.27
特殊債券	ウクライナ	1,072,891,278	9.68
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		448,452,972	4.05
合計（純資産総額）		11,084,265,461	100.00

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。

（２）投資資産

①投資有価証券の主要銘柄

１．組入上位30銘柄（平成25年12月30日現在）

国／ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
ウクライナ	特殊 債券	FINANCING OF INFRASTRUCT 9.000% 2017/12/7	10,830,000	9,710.91	1,051,692,079	9,906.66	1,072,891,278	9.68
トルコ	国債 証券	REPUBLIC OF TURKEY 6.875% 2036/3/17	6,550,000	11,376.85	745,183,707	10,328.22	676,498,410	6.10
フィリピン	国債 証券	REPUBLIC OF PHILIPPINES 4.000% 2021/1/15	5,400,000	10,997.44	593,862,111	10,934.21	590,447,475	5.33
ロシア	国債 証券	RUSSIAN FEDERATION 7.500% 2030/3/31	4,719,000	12,472.11	588,559,158	12,325.36	581,633,760	5.25
アルゼンチン	国債 証券	REPUBLIC OF ARGENTINA 8.750% 2017/6/2	4,815,000	9,419.90	453,568,471	9,564.14	460,513,461	4.15
ベネズエラ	国債 証券	REPUBLIC OF VENEZUELA 11.950% 2031/8/5	4,620,000	10,380.91	479,598,273	9,063.54	418,735,548	3.78
アンゴラ共和国	国債 証券	REPUBLIC OF ANGOLA 7.000% 2019/8/16	3,250,000	11,316.24	367,777,875	11,276.73	366,493,725	3.31
ベネズエラ	国債 証券	REPUBLIC OF VENEZUELA 11.750% 2026/10/21	3,840,000	10,354.56	397,615,392	9,063.54	348,039,936	3.14
ジャマイカ	国債 証券	JAMAICA GOVERNMENT 8.000% 2039/3/15	3,720,000	8,985.84	334,273,367	9,010.84	335,203,434	3.02
ベリーズ	国債 証券	REPUBLIC OF BELIZE 5.000% 2038/2/20	4,910,000	6,569.09	322,542,801	6,744.96	331,177,536	2.99
南アフリカ	国債 証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 4.665% 2024/1/17	3,248,000	10,340.86	335,871,353	10,104.26	328,186,567	2.96

コートジボアール	国債証券	REPUBLIC OF COTE D'IVOIRE 7.09955% 2032/12/31	3,390,000	9,247.97	313,506,267	9,458.75	320,651,709	2.89
エルサルバドル	国債証券	REPUBLIC OF EL SALVADOR 8.250% 2032/4/10	2,750,000	11,065.95	304,313,625	11,382.12	313,008,300	2.82
南アフリカ	国債証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 6.250% 2041/3/8	2,800,000	11,197.68	313,535,250	10,934.21	306,157,950	2.76
エジプト	国債証券	ARAB REPUBLIC OF EGYPT 5.750% 2020/4/29	3,020,000	9,880.31	298,385,437	10,091.09	304,750,993	2.75
ザンビア	国債証券	REPUBLIC OF ZAMBIA 5.375% 2022/9/20	3,110,000	9,313.84	289,660,462	9,168.93	285,153,723	2.57
トルコ	国債証券	REPUBLIC OF TURKEY 3.250% 2023/3/23	3,230,000	9,089.88	293,603,366	8,668.32	279,986,978	2.53
トルコ	国債証券	REPUBLIC OF TURKEY 6.000% 2041/1/14	2,580,000	9,800.21	252,845,575	9,237.43	238,325,784	2.15
トルコ	国債証券	REPUBLIC OF TURKEY 5.125% 2022/3/25	2,240,000	10,539.00	236,073,600	10,138.51	227,102,803	2.05
トルコ	国債証券	REPUBLIC OF TURKEY 11.875% 2030/1/15	1,400,000	17,041.56	238,581,882	15,782.15	220,950,135	1.99
トルコ	国債証券	REPUBLIC OF TURKEY 6.750% 2040/5/30	2,140,000	11,224.03	240,194,349	10,170.13	217,640,889	1.96
アルゼンチン	国債証券	REPUBLIC OF ARGENTINA 8.280% 2033/12/31	2,561,622.1	6,560.52	168,055,921	7,956.94	203,826,861	1.84
ベラルーシ	国債証券	REPUBLIC OF BELARUS 8.750% 2015/8/3	1,840,000	10,512.65	193,432,806	10,644.39	195,856,776	1.77
セルビア	国債証券	SERBIA REPUBLIC 7.250% 2021/9/28	1,657,000	10,631.21	176,159,253	11,170.81	185,100,372	1.67
ハンガリー	国債証券	REPUBLIC OF HUNGARY 6.375% 2021/3/29	1,400,000	11,300.17	158,202,509	11,382.12	159,349,680	1.44
ベネズエラ	国債証券	REPUBLIC OF VENEZUELA 9.000% 2023/5/7	2,000,000	9,168.93	183,378,600	7,930.59	158,611,950	1.43
ルーマニア	国債証券	REPUBLIC OF ROMANIA 6.750% 2022/2/7	1,200,000	11,950.69	143,408,388	11,980.20	143,762,499	1.30
ベラルーシ	国債証券	REPUBLIC OF BELARUS 8.950% 2018/1/26	1,250,000	10,371.00	129,637,604	10,591.69	132,396,187	1.19
エルサルバドル	国債証券	REPUBLIC OF EL SALVADOR 7.625% 2041/2/1	1,300,000	10,486.30	136,321,965	10,170.13	132,211,755	1.19
ガーナ	国債証券	REPUBLIC OF GHANA 7.875% 2023/8/7	1,200,000	10,457.86	125,494,386	10,064.74	120,776,940	1.09

（注1）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額の比率です。

（注2）外貨建資産に属する銘柄の帳簿価額および評価額は、対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

2. 種類別及び業種別投資比率（平成25年12月30日現在）

種類	投資比率（%）
国債証券	86.27
特殊債券	9.68
合計	95.95

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類の比率です。

②投資不動産物件
該当事項はありません。

③その他投資資産の主要なもの
該当事項はありません。

《2》パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ
(1) 投資状況

(平成25年12月30日現在)

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	ブラジル	5,749,204,796	14.05
	南アフリカ	5,433,861,419	13.28
	ポーランド	4,253,529,794	10.40
	メキシコ	4,047,313,387	9.89
	インドネシア	3,578,677,152	8.75
	ナイジェリア	2,563,566,570	6.27
	トルコ	2,487,808,025	6.08
	マレーシア	1,454,450,400	3.56
	ハンガリー	1,245,460,879	3.04
	ロシア	1,004,659,200	2.46
	アルゼンチン	833,192,712	2.04
	ペルー	733,812,352	1.79
	タイ	667,105,448	1.63
	ウルグアイ	456,735,924	1.12
	小 計	34,509,378,058	84.36
社債券	アメリカ	2,783,009,211	6.80
投資信託証券	アイルランド	1,633,173,082	3.99
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		1,980,689,855	4.84
合計（純資産総額）		40,906,250,206	100.00

(注1) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。
(注2) 国債連動債（CLN）は、社債券に区別されますが、実質的には現地通貨建ての国債証券に投資しているのと同様の投資効果を有しております。
(注3) 投資信託証券は、BRICs諸国（ブラジル、ロシア、インド、中国）の公社債に投資しております。

(2) 投資資産
①投資有価証券の主要銘柄

1. 組入上位30銘柄（平成25年12月30日現在）

国／地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
南アフリカ	国債証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 10.500% 2026/12/21	282,900,000	1,191.50	3,370,762,872	1,189.57	3,365,311,601	8.23
メキシコ	国債証券	MEXICAN FIXED RATE BONDS 10.000% 2024/12/5	211,100,000	1,080.80	2,281,577,813	1,026.43	2,166,801,677	5.30

アメリカ	社債 証券	CITIGROUP INC(RUB CLN) 0.000% 2021/4/16	18,539,931	10,445.72	1,936,631,106	9,639.60	1,787,175,510	4.37
アイル ランド	投資 信託 証券	パインブリッジBRIC ボンド・ファンド	188,717.38	8,739.33	1,649,265,211	8,654.06	1,633,173,082	3.99
ブラジ ル	国債 証券	REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 12.500% 2022/1/5	31,000,000	5,274.36	1,635,051,600	5,048.96	1,565,177,600	3.83
ポーラ ンド	国債 証券	POLAND GOVERNMENT 6.250% 2015/10/24	41,300,000	3,717.26	1,535,229,412	3,711.92	1,533,023,579	3.75
ブラジ ル	国債 証券	REPUBLIC OF BRAZIL 10.000% 2017/1/1	33,800,000	4,497.85	1,520,275,666	4,482.49	1,515,082,882	3.70
インド ネシア	国債 証券	INDONESIA GOVERNMENT 12.800% 2021/6/15	137,000,000,000	1.10	1,508,458,885	1.06	1,460,618,074	3.57
ポーラ ンド	国債 証券	POLAND GOVERNMENT 5.500% 2019/10/25	38,000,000	3,803.23	1,445,227,910	3,800.82	1,444,313,500	3.53
ナイジ ェリア	国債 証券	NIGERIA TREASURY BOND 16.390% 2022/1/27	1,750,000,000	76.05	1,330,977,935	76.01	1,330,288,190	3.25
南アフ リカ	国債 証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 13.500% 2015/9/15	91,500,000	1,138.39	1,041,633,492	1,120.16	1,024,950,101	2.51
ロシア	国債 証券	RUSSIA FOREIGN BOND 7.850% 2018/3/10	300,000,000	338.96	1,016,906,400	334.88	1,004,659,200	2.46
アメリカ	社債 証券	CITIGROUP INC(LKR CLN) 0.000% 2021/5/1	9,298,400	9,753.00	906,873,079	10,709.73	995,833,701	2.43
ブラジ ル	国債 証券	REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 12.500% 2016/1/5	20,000,000	4,852.86	970,572,400	4,710.86	942,172,000	2.30
アルゼ ンチン	国債 証券	REPUBLIC OF ARGENTINA 2.000% 2018/2/4	37,294,000	351.32	131,023,568	2,234.11	833,192,712	2.04
トルコ	国債 証券	TURKEY GOVERNMENT 10.500% 2020/1/15	16,700,000	5,364.47	895,867,351	4,981.48	831,907,744	2.03
メキシ コ	国債 証券	MEXICAN FIXED RATE BONDS 8.500% 2018/12/13	88,000,000	943.46	830,246,437	912.34	802,860,181	1.96
ブラジ ル	国債 証券	REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 10.250% 2028/1/10	18,400,000	4,593.19	845,148,570	4,350.22	800,440,480	1.96
ナイジ ェリア	国債 証券	NIGERIA TREASURY BOND 10.500% 2014/3/18	1,140,000,000	65.06	741,749,526	65.61	748,019,781	1.83
ハンガ リー	国債 証券	HUNGARY GOVERNMENT 7.000% 2022/6/24	1,350,000,000	53.10	716,936,346	53.34	720,120,313	1.76
トルコ	国債 証券	TURKEY GOVT INFL IX 3.000% 2021/7/21	11,300,000	4,903.22	645,704,793	4,756.49	640,834,369	1.57
メキシ コ	国債 証券	MEXICAN BONOS DESARR FIX 10.000% 2036/11/20	60,000,000	1,079.68	647,811,192	1,019.24	611,548,035	1.49
インド ネシア	国債 証券	INDONESIA GOVERNMENT 11.000% 2025/9/15	60,750,000,000	1.04	634,522,316	0.99	606,042,000	1.48
トルコ	国債 証券	TURKEY GOVERNMENT 9.500% 2022/1/12	12,500,000	5,184.46	648,057,500	4,678.24	584,780,187	1.43
ポーラ ンド	国債 証券	POLAND GOVERNMENT 5.750% 2021/10/25	15,000,000	3,878.00	581,700,000	3,867.50	580,125,000	1.42
ハンガ リー	国債 証券	HUNGARY GOVERNMENT 6.750% 2028/10/22	1,020,000,000	50.86	518,832,372	51.50	525,340,566	1.28

ペルー	国債証券	PERU BONO SOBERANO 7.840% 2020/8/12	12,000,000	4,403.32	528,398,724	4,289.12	514,694,640	1.26
マレーシア	国債証券	MALAYSIAN GOVERNMENT 4.262% 2016/9/15	15,000,000	3,284.56	492,684,480	3,269.75	490,463,520	1.20
マレーシア	国債証券	MALAYSIAN GOVERNMENT 4.378% 2019/11/29	15,000,000	3,324.88	498,732,000	3,260.56	489,084,480	1.20
ナイジェリア	国債証券	NIGERIA TREASURY BOND 15.100% 2017/4/27	700,000,000	69.27	484,936,718	69.32	485,258,599	1.19

（注1）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額の比率です。

（注2）外貨建資産に属する銘柄の帳簿価額および評価額は、対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

（注3）「パインブリッジBRICボンド・ファンド」は、BRICs諸国の公社債に投資する投資信託証券です。

（注4）国債連動債（CLN）にはクーポンは設定されていませんが、実質的に保有する国債証券の利払いは配当として受取れます。

（注5）国債連動債（CLN）の銘柄名に記載されている記号は、「RUB=ロシア、LKR=スリランカ」を表しております。

2. 種類別及び業種別投資比率（平成25年12月30日現在）

種類	投資比率（%）
国債証券	84.36
社債券	6.80
投資信託証券	3.99
合計	95.16

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類の比率です。

②投資不動産物件

該当事項はありません。

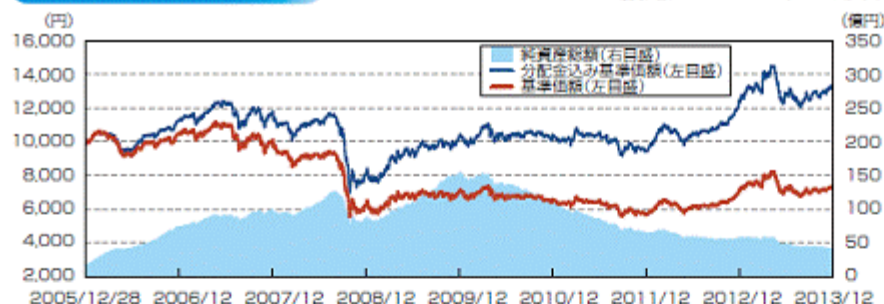
③その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

<参考情報>

基準価額・純資産の推移

(設定日～2013年12月末)



※上記の分配金込み基準価額は、過去に支払われた分配金を非課税で再投資したものと計算しています。

(2013年12月末現在)

基準価額	7.337円
純資産総額	4,269百万円

分配の推移

(1万口あたり、課税前)

2013年11月	50円	2013年5月	50円	直近1年間累計	300円
2013年9月	50円	2013年3月	50円	設定来累計	4,630円
2013年7月	50円	2013年1月	50円		

主要な資産の状況

(2013年12月末現在)

パインブリッジ新成長国債券マザーファンドI	39.61%
パインブリッジ新成長国債券マザーファンドII	59.10%
キャッシュ等	1.30%

●パインブリッジ新成長国債券マザーファンドIの主要な資産の状況

国名	銘柄名	クーポン(%)	償還日	投資比率(%)
ウクライナ	FINANCING OF INFRASTRUCT	9.000	2017/12/7	9.68
トルコ	REPUBLIC OF TURKEY	6.875	2036/3/17	6.10
フィリピン	REPUBLIC OF PHILIPPINES	4.000	2021/1/15	5.33
ロシア	RUSSIAN FEDERATION	7.500	2030/3/31	5.25
アルゼンチン	REPUBLIC OF ARGENTINA	8.750	2017/6/2	4.15

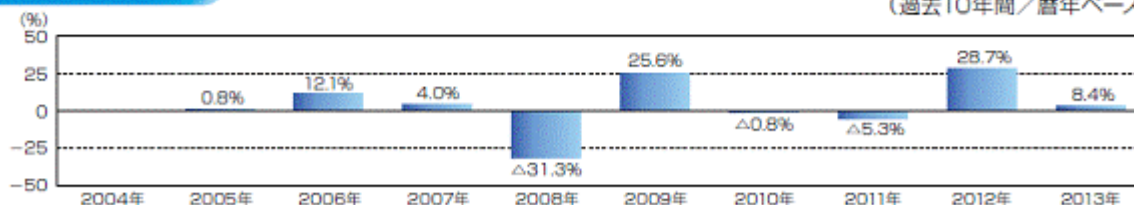
※投資比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。(以下同じ)

●パインブリッジ新成長国債券マザーファンドIIの主要な資産の状況

国名	銘柄名	クーポン(%)	償還日	投資比率(%)
南アフリカ	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	10.500	2026/12/21	8.23
メキシコ	MEXICAN FIXED RATE BONDS	10.000	2024/12/5	5.30
アメリカ	CITIGROUP INC(RUB CLN)	0.000	2021/4/16	4.37
アイルランド	パインブリッジ BRIC ボンド・ファンド	—	—	3.99
ブラジル	REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL)	12.500	2022/1/5	3.83

年間収益率の推移

(過去10年間/暦年ベース)



※ファンドの収益率は分配金込み基準価額を基に算出しています。また、2005年は設定日(12月28日)から年末までの騰落率を表示しています。なお、当ファンドにはベンチマークはありません。

上記は過去の実績であり、将来の投資成果等をお約束するものではありません。
最新の運用状況は、委託会社または販売会社のホームページ等でご確認いただけます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

（1）取得申込の受付

- ①申込期間：平成26年2月25日（火）から平成27年2月24日（火）まで
※申込期間は、当該期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
- ②受益権の取得申込は、原則として、申込期間中の販売会社の営業日に受付けます。ただし、取得申込日がロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合は、取得申込の受付を行いません。取得申込の受付は、原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。これら受付時間を過ぎてからの取得申込は翌営業日のお取扱いとなります。
- ③運用の基本方針等の観点から受益者にとって不利益と判断する場合には、委託会社の判断で取得申込を受付けない場合があります。また、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、取得申込の受付を中止すること、およびすでに受付けた取得申込を取消することができます。
- ④取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

（2）申込単位・申込価額

- ①収益分配金の受取方法により、収益分配金を受取る「分配金受取りコース」と分配金を税引き後再投資する「分配金再投資コース」の2つの申込コースがあります。取得申込時にいずれかの申込コースを選択いただきます。なお、原則として、取得申込手続完了後の申込コースの変更はできません。

＜分配金受取りコース＞：1万円以上1円単位

＜分配金再投資コース＞：1万円以上1円単位

- ②受益権の申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、当該基準価額に2.1%（税抜2.0%）^{*}の率を乗じて得た額を上限として、販売会社が独自に定める申込手数料を加算した価額とします。なお、収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

※消費税率が8%になった場合は、2.16%（税抜2.0%）となります。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

2【換金（解約）手続等】

- ①受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。受益者が一部解約の請求をするときは、振替受益権をもって行うものとします。
- ②一部解約の実行請求の受付は、原則として、販売会社の営業日に受付けます。ただし、解約請求日がロンドン、ニューヨークの銀行休業日と同日の場合には、解約請求の受付は行いません。解約請求の受付は、原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。これら受付時間を過ぎてからの解約請求は翌営業日のお取扱いとなります。
- ③一部解約の価額は、一部解約の実行請求を受付けた日の翌営業日の基準価額とし、委託会社の営業日に日々算出されます。一部解約の価額は、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

- ④委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行請求の受付を中止すること、およびすでに受付けた一部解約の実行請求を取消することができます。

- ⑤一部解約の実行請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行請求を受付けたものとして、前記③の規定に準じて算出された価額とします。
- ⑥解約代金のお支払いは、解約請求を受付けた日から起算して、原則として6営業日目から、販売会社を通じてお支払いします。
- ⑦解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの投資信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

- ①基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除して得た額をいいます。
- ②マザーファンド受益証券の評価は、原則として計算日における基準価額により評価します。実質組入外国債券の評価は、原則として計算日の前営業日付の証券会社、銀行等が提示する価額（ただし、売気配相場を除く）、または価格情報会社の提供する価額のいずれかにより評価します。外貨建て資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。
- ③基準価額は、委託会社の営業日に日々算出され、委託会社および販売会社で1万口当たりの価額として発表されます。基準価額については、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

(2)【保管】

ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、振替制度に移行しており、受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しません。

(3)【信託期間】

無期限とします。ただし、信託期間を繰上げて償還することがあります。（後記（5）その他 ①信託の終了 をご参照ください。）

(4)【計算期間】

原則として、毎年1月26日から3月25日、3月26日から5月25日、5月26日から7月25日、7月26日から9月25日、9月26日から11月25日、11月26日から翌年1月25日とします。

ただし、各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日はその翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとします。

(5)【その他】

①信託の終了

1) 投資信託契約の解約

1. 委託会社は、この投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき、もしくは投資信託契約の一部解約により、受益権の口数が5億口を下回ることとなった場合には、受託会社と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

2. 委託会社は、前記1. の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
3. 前記2. の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
4. 前記3. の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1. の投資信託契約の解約をしません。
5. 委託会社は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときには、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
6. 前記3. から5. までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記3. の一定期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

2) 投資信託契約に関する監督官庁の命令等による場合の信託終了

1. 委託会社は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。
2. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、監督官庁が、この投資信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後記③信託約款の変更4) に該当する場合を除き、当該委託会社と受託会社との間において存続します。

3) 受託会社の辞任および解任の場合の信託終了

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は信託約款の規定にしたがい新受託会社を選任します。なお、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

②委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

- 1) 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- 2) 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。

③信託約款の変更

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
- 2) 委託会社は、前記1) の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- 3) 前記2) の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- 4) 前記3) の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1) の信託約款を変更しません。
- 5) 委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつこれらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

6) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記1) から5) までの規定にしたがいます。

④公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

⑤反対者の買取請求権

ファンドの投資信託契約の解約または信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

⑥運用報告書

委託会社は、原則として6ヵ月毎（毎年5月、11月）および償還時に運用報告書を作成し、知られたる受益者に対して交付します。

また、このほか運用状況等に関するレポートを定期的に作成・更新しており、販売会社または委託会社のホームページにて入手することができます。

委託会社ホームページ

<http://www.pinebridge.co.jp/>

⑦信託事務処理の再信託

受託会社は、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

⑧関係会社との契約の更改

1) 販売会社との契約

委託会社と販売会社との間で締結される「受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約」には、販売会社の行う受益権の募集、一部解約請求、収益分配金および償還金の支払い等の取扱い等が規定されています。なお、契約の有効期間は1年とし、期間満了の3ヵ月前までに、いずれからも別段の意思表示がない場合は自動更新となります。

2) マザーファンドの投資顧問会社との契約

委託会社と委託会社がマザーファンドの信託財産の運用にかかる指図権を委託するものとの間に締結する契約で、マザーファンドの信託財産の運用委託権限の範囲、議決権行使の指図、発注権限、運用状況の報告内容、報酬等が定められています。なお、契約の有効期間は1年とし、期間満了の3ヵ月前までに、いずれからも別段の意思表示がない場合は自動更新となります。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は、次の通りです。

①収益分配金に対する請求権

受益者は、収益分配金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて請求する権利を有します。

＜分配金受取りコース＞の収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に、決算日後1ヵ月以内の委託会社が指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）からお支払いします。

なお、受益者が支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、収益分配金を請求する権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

＜分配金再投資コース＞の収益分配金は、原則として、税引き後、無手数料で決算日の翌営業日に自動的に再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

②一部解約の実行請求権

受益者は、信託財産の一部解約の実行を請求する権利を有します。一部解約金は、原則として受益者の請求を受付けた日から起算して6営業日目から、販売会社を通じてお支払いします。

③償還金に対する請求権

受益者は、償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて請求する権利を有します。

償還金は、償還日において振替機関の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に、償還日後1ヵ月以内の委託会社が指定する日（原則として償還日から起算して5営業日まで）から販売会社を通じてお支払いします。

なお、受益者が支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、償還金を請求する権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

④反対者の買取請求権

信託約款の変更の内容が重大なものに該当するとき、または投資信託契約の解約が行われる場合、所定期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって公正な価額で買取るべき旨を請求することができます。

⑤帳簿書類の閲覧・謄写請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

(3)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第16特定期間（平成25年5月28日から平成25年11月25日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

パインブリッジ新成長国債インカムオープン

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第15特定期間 (平成25年5月27日現在)	第16特定期間 (平成25年11月25日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	94,726,330	69,682,547
親投資信託受益証券	5,556,878,106	4,420,496,481
未収入金	40,000,000	30,000,000
未収利息	77	57
流動資産合計	5,691,604,513	4,520,179,085
資産合計	5,691,604,513	4,520,179,085
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	35,467,308	31,041,167
未払解約金	38,402,240	28,315,417
未払受託者報酬	733,251	551,156
未払委託者報酬	16,026,744	12,046,739
流動負債合計	90,629,543	71,954,479
負債合計	90,629,543	71,954,479
純資産の部		
元本等		
元本	7,093,461,705	6,208,233,573
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△1,492,486,735	△1,760,008,967
（分配準備積立金）	145,128,936	166,497,958
元本等合計	5,600,974,970	4,448,224,606
純資産合計	5,600,974,970	4,448,224,606
負債純資産合計	5,691,604,513	4,520,179,085

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第15特定期間 自 平成24年11月27日 至 平成25年 5月27日	第16特定期間 自 平成25年 5月28日 至 平成25年11月25日
営業収益		
受取利息	23,642	7,879
有価証券売買等損益	1,216,565,423	△381,381,625
営業収益合計	1,216,589,065	△381,373,746
営業費用		
受託者報酬	2,116,997	1,715,718
委託者報酬	46,271,390	37,500,749
営業費用合計	48,388,387	39,216,467
営業利益又は営業損失（△）	1,168,200,678	△420,590,213
経常利益又は経常損失（△）	1,168,200,678	△420,590,213
当期純利益又は当期純損失（△）	1,168,200,678	△420,590,213
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	51,984,524	△34,214,670
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△2,935,696,761	△1,492,486,735
剰余金増加額又は欠損金減少額	448,291,851	220,146,600
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	448,291,851	220,146,600
剰余金減少額又は欠損金増加額	8,373,097	4,987,419
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	8,373,097	4,987,419
分配金	112,924,882	96,305,870
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△1,492,486,735	△1,760,008,967

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	
1.有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日の取扱い 平成25年5月25日及びその翌日が休日のため、前特定期間末日を平成25年5月27日としており、このため当特定期間は182日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第15特定期間 (平成25年5月27日現在)	第16特定期間 (平成25年11月25日現在)
1.期首元本額	8,583,500,763円	7,093,461,705円
期中追加設定元本額	31,608,573円	19,492,002円
期中一部解約元本額	1,521,647,631円	904,720,134円
2.受益権の総数	7,093,461,705口	6,208,233,573口
3.元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は1,492,486,735円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は1,760,008,967円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第15特定期間 自 平成24年11月27日 至 平成25年 5月27日	第16特定期間 自 平成25年 5月28日 至 平成25年11月25日
1.投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託する場合における当該委託に要する費用	10,320,725円	8,374,762円
2.分配金の計算過程		
	[平成24年11月27日から 平成25年 1月25日まで の計算期間]	[平成25年5月28日から 平成25年7月25日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額	63,377,917円	46,171,912円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	1,041,079円	1,445,123円
分配準備積立金額	81,935,291円	135,460,434円
当ファンドの分配対象収益額	146,354,287円	183,077,469円
当ファンドの期末残存口数	7,956,909,640口	6,632,490,923口
1万口当たり収益分配対象額	183.93円	276.03円
1万口当たり分配金額	50.00円	50.00円
収益分配金金額	39,784,548円	33,162,454円
	[平成25年1月26日から 平成25年3月25日まで の計算期間]	[平成25年7月26日から 平成25年9月25日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額	54,895,303円	41,430,004円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	1,243,679円	1,469,070円
分配準備積立金額	99,705,886円	143,658,859円
当ファンドの分配対象収益額	155,844,868円	186,557,933円
当ファンドの期末残存口数	7,534,605,310口	6,420,449,976口
1万口当たり収益分配対象額	206.83円	290.56円
1万口当たり分配金額	50.00円	50.00円
収益分配金金額	37,673,026円	32,102,249円
	[平成25年3月26日から 平成25年5月27日まで の計算期間]	[平成25年 9月26日から 平成25年11月25日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額	70,594,864円	49,708,535円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	1,262,555円	1,529,419円
分配準備積立金額	110,001,380円	147,830,590円
当ファンドの分配対象収益額	181,858,799円	199,068,544円
当ファンドの期末残存口数	7,093,461,705口	6,208,233,573口
1万口当たり収益分配対象額	256.37円	320.65円

1万口当たり分配金額	50.00円	50.00円
収益分配金金額	35,467,308円	31,041,167円

（金融商品に関する注記）

I 金融商品の状況に関する事項

項目	第15特定期間 自 平成24年11月27日 至 平成25年 5月27日	第16特定期間 自 平成25年 5月28日 至 平成25年11月25日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、投資信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対する投資として運用することを目的としています。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する主な金融資産は、親投資信託受益証券、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等であります。 当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	- 運用業務部において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。 - 法務コンプライアンス部において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。 - 運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。	同左

Ⅱ 金融商品の時価等に関する事項

項目	第15特定期間 (平成25年5月27日現在)	第16特定期間 (平成25年11月25日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
4.金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額	貸借対照表に計上している金銭債権は、その全額が1年以内に償還されます。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	第15特定期間 (平成25年5月27日現在)	第16特定期間 (平成25年11月25日現在)
	最終の計算期間の損益 に含まれた評価差額	最終の計算期間の損益 に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	358,651,484	84,062,886
合計	358,651,484	84,062,886

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

項目	第15特定期間 (平成25年5月27日現在)	第16特定期間 (平成25年11月25日現在)
1口当たり純資産額	0.7896円	0.7165円
(1万口当たり純資産額)	(7,896円)	(7,165円)

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表（平成25年11月25日現在）

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
日本円	親投資信託 受益証券	パインブリッジ新成長国債マザーファンドⅠ	1,071,451,958	1,769,181,473	
		パインブリッジ新成長国債マザーファンドⅡ	1,722,527,942	2,651,315,008	
合計			2,793,979,900	4,420,496,481	

(注)親投資信託受益証券における券面総額の数値は証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

[次へ](#)

（参考）

当ファンドは「パインブリッジ新成長国債マザーファンドⅠ」および「パインブリッジ新成長国債マザーファンドⅡ」の各受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、同マザーファンドの状況は次の通りです。

「パインブリッジ新成長国債マザーファンドⅠ」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外です。

(1)貸借対照表

区分	注記 事項	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
		金額（円）	金額（円）
資産の部			
流動資産			
預金		201,821,508	169,189,593
コール・ローン		195,528,344	137,714,121
国債証券		14,523,164,798	10,365,167,920
特殊債券		—	964,302,387
派生商品評価勘定		3,750,000	—
未収入金		626,544,725	42,696,293
未収利息		269,594,821	167,117,375
前払費用		10,861,479	92,489,156
流動資産合計		15,831,265,675	11,938,676,845
資産合計		15,831,265,675	11,938,676,845
負債の部			
流動負債			
未払金		407,753,035	118,126,564
未払解約金		143,000,000	28,000,000
流動負債合計		550,753,035	146,126,564
負債合計		550,753,035	146,126,564
純資産の部			
元本等			
元本		8,776,010,327	7,141,892,256
剰余金			
剰余金又は欠損金（△）		6,504,502,313	4,650,658,025
元本等合計		15,280,512,640	11,792,550,281
純資産合計		15,280,512,640	11,792,550,281
負債純資産合計		15,831,265,675	11,938,676,845

(注) 親投資信託の計算期間は、原則として、毎年3月21日から9月20日まで、および9月21日から翌年3月20日までであります。

(2)注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	
1.有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券・特殊債券 個別法に基づき、原則として金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない。）または価格情報会社の提供する価額で時価評価しております。
2.デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、我が国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
1.期首元本額	11,137,820,728円	8,776,010,327円
期中追加設定元本額	167,785,235円	18,683,441円
期中一部解約元本額	2,529,595,636円	1,652,801,512円
元本の内訳		
ファンド名		
パインブリッジ新成長国債債券プラス	7,358,397,236円	6,015,159,902円
パインブリッジ新成長国債インカムオープン	1,277,770,184円	1,071,451,958円
パインブリッジ・イレブンプラス ＜毎月決算型＞	139,842,907円	55,280,396円
合計	8,776,010,327円	7,141,892,256円
2.受益権の総数	8,776,010,327口	7,141,892,256口

（金融商品に関する注記）

I 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成24年11月27日 至 平成25年 5月27日	自 平成25年 5月28日 至 平成25年11月25日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、投資信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対する投資として運用することを目的としています。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する主な金融資産は、国債証券、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等であります。 当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。	当ファンドが保有する主な金融資産は、国債証券、特殊債券、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等であります。 当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。
3.金融商品に係るリスク管理体制	・運用業務部において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。 ・法務コンプライアンス部において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。 ・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。	同左

II 金融商品の時価等に関する事項

項目	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 「（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、「（デリバティブ取引等に関する注記）」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4.金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額	貸借対照表に計上している金銭債権は、その全額が1年以内に償還されます。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
	当計算期間の損益 に含まれた評価差額	当計算期間の損益 に含まれた評価差額
国債証券	△51,514,214	△209,960,832
特殊債券	—	△48,271,816
合計	△51,514,214	△258,232,648

(注) 当計算期間の損益に含まれた評価差額は、当親投資信託の計算期間の開始日から本報告書における開示対象ファンドの特定期間末日までの期間に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

通貨関連

区分	種類	(平成25年5月27日現在)			
		契約額等 (円)	うち1年超 (円)	時価 (円)	評価損益 (円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米ドル	306,330,000	—	302,580,000	3,750,000
合計		306,330,000	—	302,580,000	3,750,000

(平成25年11月25日現在)

該当事項はありません。

(注) 時価の算定方法

- 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。
 - ① 計算期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。
 - ② 計算期間末日において当該日の対顧客先物売買相場が発表されていない場合は、以下の方法によっています。
 - ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
 - ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いています。
- 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しています。
- 換算において円未満の端数は切り捨てています。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

項目	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.7412円 (17,412円)	1.6512円 (16,512円)

(3)附属明細表

第1 有価証券明細表（平成25年11月25日現在）

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
米国ドル	国債証券	ARAB REPUBLIC OF EGYPT 5.7500% 04/29/2020	3,500,000.00	3,228,750.00	
		ARAB REPUBLIC OF EGYPT 6.8750% 04/30/2040	400,000.00	331,000.00	
		BOLIVIA GOVERNMENT 4.8750% 10/29/2022	300,000.00	289,500.00	
		HONDURAS GOVERNMENT 7.5000% 03/15/2024	4,018,000.00	3,626,245.00	
		JAMAICA GOVERNMENT 8.0000% 03/15/2039	4,230,000.00	3,532,050.00	
		MONGOLIA INTL BOND 5.1250% 12/05/2022	1,100,000.00	935,000.00	
		REPUBLIC OF ANGOLA 7.0000% 08/16/2019	3,250,000.00	3,518,125.00	
		REPUBLIC OF ARGENTINA 8.7500% 06/02/2017	4,815,000.00	4,489,987.50	
		REPUBLIC OF ARGENTINA 8.2800% 12/31/2033	2,561,622.10	2,030,085.51	
		REPUBLIC OF ARMENIA 6.0000% 09/30/2020	470,000.00	463,185.00	
		REPUBLIC OF BELARUS 8.7500% 08/03/2015	2,250,000.00	2,238,750.00	
		REPUBLIC OF BELARUS 8.9500% 01/26/2018	1,250,000.00	1,231,250.00	
		REPUBLIC OF BELIZE 5.0000% 02/20/2038	5,650,000.00	3,545,375.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL 4.2500% 01/07/2025	376,000.00	353,910.00	
		REPUBLIC OF COTE D'IVOIRE 7.09955% 12/31/2032	3,890,000.00	3,432,925.00	
		REPUBLIC OF DOMINICAN 6.6000% 01/28/2024	328,000.00	328,820.00	
		REPUBLIC OF DOMINICAN 5.8750% 04/18/2024	380,000.00	359,100.00	
		REPUBLIC OF DOMINICAN 8.6250% 04/20/2027	1,000,000.00	1,092,500.00	
		REPUBLIC OF ECUADOR 9.3750% 12/15/2015	690,000.00	727,950.00	
		REPUBLIC OF EL SALVADOR 5.8750% 01/30/2025	510,000.00	483,225.00	
		REPUBLIC OF EL SALVADOR 8.2500% 04/10/2032	2,750,000.00	3,086,875.00	
		REPUBLIC OF EL SALVADOR 7.6250% 02/01/2041	1,300,000.00	1,300,000.00	
		REPUBLIC OF GHANA 7.8750% 08/07/2023	1,200,000.00	1,176,000.00	
		REPUBLIC OF HUNGARY 6.3750% 03/29/2021	1,400,000.00	1,499,750.00	
		REPUBLIC OF HUNGARY 5.3750% 02/21/2023	880,000.00	862,400.00	
		REPUBLIC OF HUNGARY 5.7500% 11/22/2023	1,180,000.00	1,171,032.00	
		REPUBLIC OF HUNGARY 7.6250% 03/29/2041	710,000.00	763,250.00	
		REPUBLIC OF ROMANIA 6.7500% 02/07/2022	1,200,000.00	1,356,000.00	
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 4.6650% 01/17/2024	3,248,000.00	3,130,260.00	
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 6.2500% 03/08/2041	2,800,000.00	2,905,000.00	
		REPUBLIC OF TURKEY 11.8750% 01/15/2030	1,400,000.00	2,212,000.00	
		REPUBLIC OF TURKEY 6.8750% 03/17/2036	6,550,000.00	6,934,812.50	
		REPUBLIC OF TURKEY 7.2500% 03/05/2038	250,000.00	276,875.00	
		REPUBLIC OF TURKEY 6.7500% 05/30/2040	2,140,000.00	2,238,975.00	
		REPUBLIC OF VENEZUELA 12.7500% 08/23/2022	2,250,000.00	2,109,375.00	
		REPUBLIC OF VENEZUELA 9.0000% 05/07/2023	2,000,000.00	1,505,000.00	
		REPUBLIC OF VENEZUELA 11.7500% 10/21/2026	3,840,000.00	3,254,400.00	
		REPUBLIC OF VENEZUELA 11.9500% 08/05/2031	11,450,000.00	9,703,875.00	

小計	計	RUSSIAN FEDERATION	12.7500%	06/24/2028	1,800,000.00	3,078,000.00
		RUSSIAN FEDERATION	7.5000%	03/31/2030	11,797,500.00	13,900,404.37
		RUSSIAN FEDERATION	5.8750%	09/16/2043	600,000.00	605,250.00
		SERBIA REPUBLIC	7.2500%	09/28/2021	1,657,000.00	1,712,923.75
		UKRAINE GOVERNMENT	6.8750%	09/23/2015	250,000.00	234,062.50
		UKRAINE GOVERNMENT	9.2500%	07/24/2017	940,000.00	895,820.00
	特殊債券 計				104,561,122.10	102,150,073.13
						(10,365,167,920)
		FINANCING OF INFRASTRUCT	9.0000%	12/07/2017	10,830,000.00	9,503,325.00
					10,830,000.00	9,503,325.00
						(964,302,387)
						111,653,398.13
合計					(11,329,470,307)	
合計					11,329,470,307	
						(11,329,470,307)

(注) 1.通貨種類毎の小計欄の（ ）内は、邦貨換算額であります。

2.合計欄の記載は邦貨額であり、（ ）内は外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

3.外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券時価比率	合計金額に対する比率
米国ドル	国債証券 44銘柄	91.5%	100.0%
	特殊債券 1銘柄	8.5%	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

[次へ](#)

「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外です。

(1)貸借対照表

区分	注記 事項	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
		金額（円）	金額（円）
資産の部			
流動資産			
預金		638,487,994	720,767,543
コール・ローン		360,312,038	431,700,901
国債証券		45,376,297,686	37,448,693,935
社債券		5,010,396,541	2,639,319,596
投資信託受益証券		2,544,480,657	1,571,224,349
派生商品評価勘定		21,911,097	1,664,281
未収入金		1,003,084,592	—
未収利息		925,847,230	794,461,450
前払費用		239,419,236	90,363,907
流動資産合計		56,120,237,071	43,698,195,962
資産合計		56,120,237,071	43,698,195,962
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		12,976,954	1,737,170
未払解約金		197,000,000	202,000,000
流動負債合計		209,976,954	203,737,170
負債合計		209,976,954	203,737,170
純資産の部			
元本等			
元本		33,552,489,535	28,257,905,918
剰余金			
剰余金又は欠損金（△）		22,357,770,582	15,236,552,874
元本等合計		55,910,260,117	43,494,458,792
純資産合計		55,910,260,117	43,494,458,792
負債純資産合計		56,120,237,071	43,698,195,962

(注)親投資信託の計算期間は、原則として、毎年3月21日から9月20日まで、および9月21日から翌年3月20日までであります。

(2)注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)国債証券・社債券 個別法に基づき、原則として金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない。）または価格情報会社の提供する価額で時価評価しております。 (2)投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、我が国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
1.期首元本額	44,882,705,544円	33,552,489,535円
期中追加設定元本額	－円	84,777,471円
期中一部解約元本額	11,330,216,009円	5,379,361,088円
元本の内訳		
ファンド名		
パインブリッジ新成長国債券プラス	30,705,589,228円	25,781,914,553円
パインブリッジ新成長国債インカム オープン	1,999,534,723円	1,722,527,942円
パインブリッジ・イレブンプラス ＜毎月決算型＞	151,148,627円	126,048,147円
パインブリッジ新成長国ダブルプラス ＜毎月分配タイプ＞	585,596,015円	522,891,798円
パインブリッジ新成長国ダブルプラス ＜1年決算タイプ＞	110,620,942円	104,523,478円
合計	33,552,489,535円	28,257,905,918円
2.受益権の総数	33,552,489,535口	28,257,905,918口

（金融商品に関する注記）

I 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成24年11月27日 至 平成25年 5月27日	自 平成25年 5月28日 至 平成25年11月25日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、投資信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対する投資として運用することを目的としています。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する主な金融資産は、国債証券、社債券、投資信託受益証券、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等であります。当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	・運用業務部において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。 ・法務コンプライアンス部において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。 ・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。	同左

II 金融商品の時価等に関する事項

項目	(平成25年5月27日現在)	(平成25年11月25日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 「（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、「（デリバティブ取引等に関する注記）」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。	同左
4.金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額	貸借対照表に計上している金銭債権は、その全額が1年以内に償還されます。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	（平成25年5月27日現在）	（平成25年11月25日現在）
	当計算期間の損益 に含まれた評価差額	当計算期間の損益 に含まれた評価差額
国債証券	505,942,080	39,377,865
社債券	△131,651,016	△98,419,940
投資信託受益証券	△48,241,545	△16,696,146
合計	326,049,519	△75,738,221

（注）当計算期間の損益に含まれた評価差額は、当親投資信託の計算期間の開始日から本報告書における開示対象ファンドの特定期間末日までの期間に対応する金額であります。

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

区分	種類	（平成25年5月27日現在）			
		契約額等 （円）	うち1年超 （円）	時価 （円）	評価損益 （円）
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建				
	米国ドル	305,170,000	—	302,580,000	2,590,000
	タイ・パーツ	830,807,171	—	811,486,074	19,321,097
	買建				
	米国ドル	830,807,171	—	817,830,217	△12,976,954
合計		1,966,784,342	—	1,931,896,291	8,934,143

区分	種類	（平成25年11月25日現在）			
		契約額等 （円）	うち1年超 （円）	時価 （円）	評価損益 （円）
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建				
	米国ドル	202,930,000	—	202,920,000	10,000
	南アフリカ・ランド	212,240,487	—	213,727,657	△1,487,170
	買建				
	米国ドル	212,240,487	—	213,644,768	1,404,281
合計		627,410,974	—	630,292,425	△72,889

（注）時価の算定方法

1. 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

- ①計算期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。
- ②計算期間末日において当該日の対顧客先物売買相場が発表されていない場合は、以下の方法によっています。
- ・計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
 - ・計算期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いています。
- 2.計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しています。
- 3.換算において円未満の端数は切り捨てています。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

項目	（平成25年5月27日現在）	（平成25年11月25日現在）
1口当たり純資産額	1.6664円	1.5392円
（1万口当たり純資産額）	（16,664円）	（15,392円）

(3)附属明細表

第1 有価証券明細表（平成25年11月25日現在）

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
米国ドル	社債券	CITIGROUP FNDG(LKR CLN) 0.0000% 05/01/2021	9,298,400.00	8,899,963.56	
		CITIGROUP INC(RUB CLN) 0.0000% 04/16/2021	18,539,931.00	17,110,873.11	
	計		27,838,331.00	26,010,836.67	
				(2,639,319,596)	
	投資信託 受益証券	PINEBRIDGE BRIC BOND FUND JDX	188,717.38	15,484,619.59	
			188,717.38	15,484,619.59	
	計			(1,571,224,349)	
				41,495,456.26	
	小計			(4,210,543,945)	
アルゼンチン・ペソ	国債証券	REPUBLIC OF ARGENTINA 0.0000% 02/04/2018	37,294,000.00	53,050,715.00	
			37,294,000.00	53,050,715.00	
	計			(885,416,433)	
				53,050,715.00	
	小計			(885,416,433)	
メキシコ・ペソ	国債証券	MEXICAN BONDS DESARP FIX 8.0000% 06/11/2020	90,000.00	102,344.58	
		MEXICAN BONOS DESARR FIX 10.0000% 11/20/2036	60,000,000.00	75,302,340.00	
		MEXICAN BONOS DESARR FIX 8.5000% 11/18/2038	28,000,000.00	30,640,652.00	
		MEXICAN FIXED RATE BONDS 8.5000% 12/13/2018	88,000,000.00	100,920,248.00	
		MEXICAN FIXED RATE BONDS 10.0000% 12/05/2024	211,100,000.00	274,589,380.50	
		MEXICAN FIXED RATE BONDS 8.5000% 05/31/2029	51,000,000.00	57,568,035.00	
	計		438,190,000.00	539,123,000.08	
				(4,210,550,630)	
	小計			539,123,000.08	
				(4,210,550,630)	
ブラジル・レアル	国債証券	REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2017	33,800,000.00	33,401,768.40	
		REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2018	9,000,000.00	8,741,367.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2021	8,000,000.00	7,496,976.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL 0.0000% 01/01/2023	5,000,000.00	4,577,255.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 12.5000% 01/05/2016	20,000,000.00	21,000,000.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 12.5000% 01/05/2022	31,000,000.00	35,371,000.00	
		REPUBLIC OF BRAZIL(DUAL) 10.2500% 01/10/2028	18,400,000.00	18,308,000.00	
	計		125,200,000.00	128,896,366.40	
				(5,737,177,268)	
	小計			128,896,366.40	
				(5,737,177,268)	
ペルー・ヌエボ・ソル	国債証券	PERU BONO SOBERANO 7.8400% 08/12/2020	12,000,000.00	13,828,440.00	
		PERU BONO SOBERANO 6.9000% 08/12/2037	5,900,000.00	5,948,203.00	

	計			17,900,000.00	19,776,643.00
					(715,518,943)
小計					19,776,643.00
					(715,518,943)
ウルグアイ・ペソ	国債証券	REP OF URUGUAY(DUAL)	5.0000% 09/14/2018	50,000,000.00	93,990,705.99
	計			50,000,000.00	93,990,705.99
					(450,215,481)
小計					93,990,705.99
					(450,215,481)
トルコ・リラ	国債証券	TURKEY GOVERNMENT	11.0000% 08/06/2014	11,600,000.00	11,810,238.40
		TURKEY GOVERNMENT	9.0000% 03/08/2017	9,000,000.00	9,049,500.00
		TURKEY GOVERNMENT	10.5000% 01/15/2020	16,700,000.00	17,935,800.00
		TURKEY GOVERNMENT	9.5000% 01/12/2022	12,500,000.00	12,831,250.00
		TURKEY GOVT INFL IX	3.0000% 07/21/2021	11,300,000.00	13,639,511.32
	計			61,100,000.00	65,266,299.72
					(3,297,253,461)
小計					65,266,299.72
					(3,297,253,461)
ハンガリー・フォリント	国債証券	HUNGARY GOVERNMENT	8.0000% 02/12/2015	1,980,000,000.00	2,094,471,720.00
		HUNGARY GOVERNMENT	7.0000% 06/24/2022	1,350,000,000.00	1,449,962,100.00
		HUNGARY GOVERNMENT	6.7500% 10/22/2028	1,020,000,000.00	1,044,702,360.00
	計			4,350,000,000.00	4,589,136,180.00
					(2,115,132,865)
小計					4,589,136,180.00
					(2,115,132,865)
ポーランド・ズロチ	国債証券	POLAND GOVERNMENT	6.2500% 10/24/2015	41,300,000.00	43,938,161.40
		POLAND GOVERNMENT	5.2500% 10/25/2017	6,000,000.00	6,402,774.00
		POLAND GOVERNMENT	5.5000% 10/25/2019	38,000,000.00	41,167,870.00
		POLAND GOVERNMENT	5.7500% 10/25/2021	15,000,000.00	16,515,000.00
		POLAND GOVERNMENT	5.7500% 09/23/2022	12,200,000.00	13,450,902.60
	計			112,500,000.00	121,474,708.00
					(3,974,652,445)
小計					121,474,708.00
					(3,974,652,445)
ロシア・ルーブル	国債証券	RUSSIA FOREIGN BOND	7.8500% 03/10/2018	520,000,000.00	540,280,000.00
	計			520,000,000.00	540,280,000.00
					(1,674,868,000)
小計					540,280,000.00
					(1,674,868,000)
マレーシア・リンギット	国債証券	MALAYSIAN GOVERNMENT	4.2620% 09/15/2016	15,000,000.00	15,449,805.00
		MALAYSIAN GOVERNMENT	4.3780% 11/29/2019	15,000,000.00	15,271,305.00
		MALAYSIAN GOVERNMENT	4.3920% 04/15/2026	15,000,000.00	15,037,905.00
	計			45,000,000.00	45,759,015.00
					(1,444,612,103)

小計					45,759,015.00	
					(1,444,612,103)	
タイ・パーツ	国債証券	THAILAND GOVERNMENT	5.1250%	03/13/2018	139,770,000.00	148,389,056.82
		THAILAND GOVERNMENT	4.7500%	12/20/2024	63,050,000.00	65,936,555.10
		THAILAND GOVERNMENT	3.5800%	12/17/2027	150,000,000.00	138,502,650.00
					352,820,000.00	352,828,261.92
	計				(1,125,522,155)	
小計					352,828,261.92	
					(1,125,522,155)	
インドネシア・ルピア	国債証券	INDONESIA GOVERNMENT	11.0000%	11/15/2020	40,000,000,000.00	45,680,000,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	12.8000%	06/15/2021	137,000,000,000.00	170,533,216,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	11.0000%	09/15/2025	60,750,000,000.00	70,075,125,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	8.3750%	09/15/2026	50,000,000,000.00	48,202,500,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	10.0000%	02/15/2028	10,683,000,000.00	11,432,209,473.00
		INDONESIA GOVERNMENT	10.5000%	08/15/2030	20,000,000,000.00	22,626,620,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	8.3750%	03/15/2034	42,000,000,000.00	39,031,062,000.00
		INDONESIA GOVERNMENT	9.5000%	05/15/2041	8,333,000,000.00	8,520,492,500.00
	計				368,766,000,000.00	416,101,224,973.00
					(3,620,080,657)	
小計					416,101,224,973.00	
					(3,620,080,657)	
南アフリカ・ランド	国債証券	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	13.5000%	09/15/2015	91,500,000.00	102,915,997.50
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.2500%	09/15/2017	20,000,000.00	20,945,580.00
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	7.7500%	02/28/2023	48,000,000.00	47,577,072.00
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	10.5000%	12/21/2026	282,900,000.00	334,467,294.90
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.5000%	01/31/2037	23,000,000.00	21,606,200.00
		REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	8.7500%	02/28/2048	36,000,000.00	34,369,200.00
	計				501,400,000.00	561,881,344.40
					(5,658,145,138)	
小計					561,881,344.40	
					(5,658,145,138)	
ナイジェリア・ナイラ	国債証券	NIGERIA TREASURY BOND	10.5000%	03/18/2014	1,140,000,000.00	1,135,918,800.00
		NIGERIA TREASURY BOND	15.1000%	04/27/2017	700,000,000.00	751,311,400.00
		NIGERIA TREASURY BOND	16.3900%	01/27/2022	1,750,000,000.00	2,082,675,000.00
	計				3,590,000,000.00	3,969,905,200.00
					(2,539,548,356)	
小計					3,969,905,200.00	
					(2,539,548,356)	
合計					41,659,237,880	
					(41,659,237,880)	

(注)1.投資信託受益証券における券面総額の数値は証券数を表示しております。

2.通貨種類毎の小計欄の（ ）内は、邦貨換算額であります。

3.合計欄の記載は邦貨額であり、（ ）内は外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

4.外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	組入投資信 託受益証券 時価比率	合計金額に 対する比率
米国ドル	社債券 2銘柄	62.7%	—	10.1%
	投資信託受益証券 1銘柄	—	37.3%	
アルゼンチン・ペソ	国債証券 1銘柄	100.0%	—	2.1%
メキシコ・ペソ	国債証券 6銘柄	100.0%	—	10.1%
ブラジル・レアル	国債証券 7銘柄	100.0%	—	13.8%
ペルー・ヌエボ・ソル	国債証券 2銘柄	100.0%	—	1.7%
ウルグアイ・ペソ	国債証券 1銘柄	100.0%	—	1.1%
トルコ・リラ	国債証券 5銘柄	100.0%	—	7.9%
ハンガリー・フォリント	国債証券 3銘柄	100.0%	—	5.1%
ポーランド・ズロチ	国債証券 5銘柄	100.0%	—	9.5%
ロシア・ルーブル	国債証券 1銘柄	100.0%	—	4.0%
マレーシア・リンギット	国債証券 3銘柄	100.0%	—	3.5%
タイ・バーツ	国債証券 3銘柄	100.0%	—	2.7%
インドネシア・ルピア	国債証券 8銘柄	100.0%	—	8.7%
南アフリカ・ランド	国債証券 6銘柄	100.0%	—	13.6%
ナイジェリア・ナイラ	国債証券 3銘柄	100.0%	—	6.1%

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「(2)注記表（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。

[前へ](#)

2【ファンドの現況】**【純資産額計算書】**

(平成25年12月30日現在)

I 資産総額	4,278,730,485 円
II 負債総額	9,297,833 円
III 純資産総額（I－II）	4,269,432,652 円
IV 発行済数量	5,819,059,059 口
V 1口当たり純資産額（III／IV） （1万口当たりの純資産額）	0.7337 円 (7,337 円)

(注) Iの資産には、有価証券の評価損益が含まれています。（以下同じ。）

(ご参考)**《1》パインブリッジ新成長国債マザーファンドI**

(平成25年12月30日現在)

I 資産総額	11,184,928,961 円
II 負債総額	100,663,500 円
III 純資産総額（I－II）	11,084,265,461 円
IV 発行済数量	6,474,902,077 口
V 1口当たり純資産額（III／IV） （1万口当たりの純資産額）	1.7119 円 (17,119 円)

《2》パインブリッジ新成長国債マザーファンドII

(平成25年12月30日現在)

I 資産総額	41,008,113,706 円
II 負債総額	101,863,500 円
III 純資産総額（I－II）	40,906,250,206 円
IV 発行済数量	26,085,834,200 口
V 1口当たり純資産額（III／IV） （1万口当たりの純資産額）	1.5681 円 (15,681 円)

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、振替受益権となっており、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(1) 名義書換

該当事項はありません。

(2) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

(3) 譲渡制限

該当事項はありません。

(4) 受益権の譲渡

- ①受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ②前記①の申請のある場合には、前記①の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- ③前記①の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(6) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(7) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。）に支払います。

(8) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

（平成25年12月末日現在）

- ・資本金の額 500,000,000円
- ・会社が発行する株式の総数 50,000株
- ・発行済株式総数 41,000株
- ・資本金の額の増減（最近5年間）
平成24年 8月11日 1,650,000,000円減少。

・会社の機構

（1）経営の意思決定

3名以上の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結時までとし、欠員の補充または増員により就任した取締役の任期は、他の取締役の残任期間と同一です。

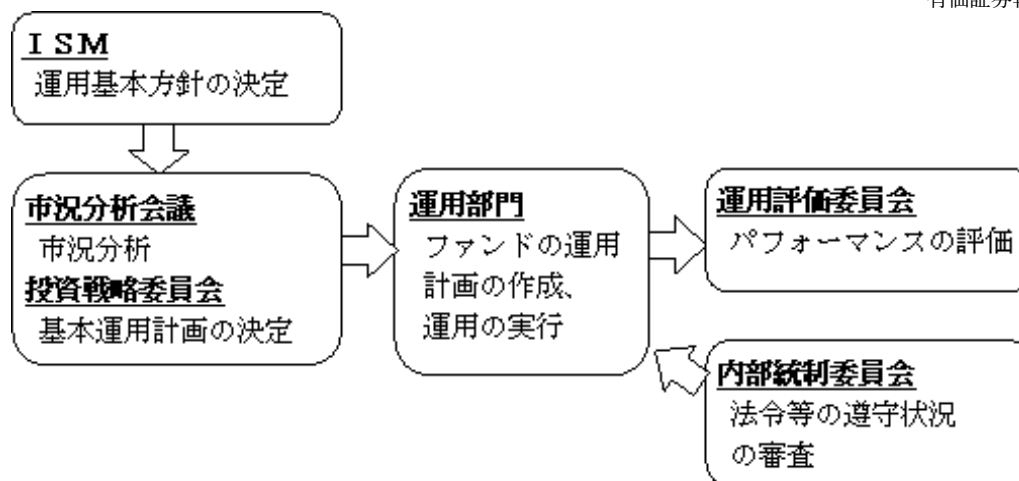
取締役会は、その決議をもって、代表取締役1名以上を選定します。また、会長、社長、副社長及びその他の役付取締役を選定することができます。

取締役会は、少なくとも3ヵ月に1回は開催します。取締役会は、当社の経営に関するすべての重要事項並びに法令もしくは定款によって定められた事項を決定します。取締役会の決議は、法律に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席のうえ、出席取締役の過半数の議決によって行います。

（2）運用の意思決定

世界中の運用拠点の主要メンバーにより組織されているインベストメント・ストラテジー・ミーティング（ISM：Investment Strategy Meeting）で経済環境、投資戦略、市場リスク分析、各地域の景気サイクルなどの詳細な分析が行われ、これを参考に、独自に開催する市況分析会議・投資戦略委員会を経て基本運用計画を決定します。これに基づいて、運用部門においてファンド毎の運用計画を作成し、ポートフォリオの構築を行い運用を実行します。

なお、運用体制は次の通りとなっております。



※前記の運用体制等は、今後変更することがあります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等を行っています。

委託会社の運用する証券投資信託は、平成25年12月末日現在、次の通りです。（ただし、親投資信託を除きます。）

種類	本数	純資産総額
単位型株式投資信託	45	162,680 百万円
追加型株式投資信託	63	511,299 百万円
合計	108	673,980 百万円

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づき作成しております。

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づき作成しております。

2. 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

3. 当社は、第28期事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定により、あらた監査法人により監査を受けております。

また、第29期事業年度に係る中間会計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定により、あらた監査法人により中間監査を受けております。

1. 財務諸表

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第27期 (平成24年3月31日現在)		第28期 (平成25年3月31日現在)	
資産の部				
流動資産				
現金・預金	*2	1,673,740	*2	334,667
前払費用		68,179		78,455
未収入金		466,276		35,659
未収委託者報酬		171,371		1,596,855
未収運用受託報酬		222,132		223,887
未収販売手数料		8,279		9,419
立替金		4,238		33,280
未収還付法人税等		193		15
未収還付消費税等		58,402		-
前渡金		150,013		-
流動資産合計		2,822,825		2,312,240
固定資産				
有形固定資産				
建物附属設備	*1	145,676	*1	26,939
工具器具備品	*1	58,741	*1	31,800
有形固定資産合計		204,417		58,739
無形固定資産				
のれん		311,439		-
ソフトウェア		95,396		49,306
電話加入権		3,875		3,875
無形固定資産合計		410,712		53,181
投資その他の資産				
投資有価証券		89,514		88,050
関係会社株式		-		371,079
その他の関係会社有価証券		70,499		1,798
長期貸付金		2,428,604		-
敷金保証金		193,745		153,069
長期前払費用		983		39,866
預託金		274		74
投資その他の資産合計		2,783,621		653,938
固定資産合計		3,398,752		765,860
資産合計		6,221,578		3,078,101

(単位:千円)

	第27期 (平成24年3月31日現在)	第28期 (平成25年3月31日現在)
負債の部		
流動負債		
預り金	90,289	20,792
未払金		
未払収益分配金	1,692	1,692
未払償還金	3,500	3,500
未払手数料	70,745	722,328
その他未払金	127,243	263,346
未払費用	831,782	694,184
前受収益	42,000	10,655
未払消費税等	-	3,237
賞与引当金	80,107	51,275
役員賞与引当金	2,181	3,714
流動負債合計	1,249,540	1,774,727
固定負債		
退職給付引当金	136,736	92,637
役員退職慰労引当金	42,336	28,009
長期前受収益	-	39,083
その他	11,792	14,747
固定負債合計	190,864	174,478
負債合計	1,440,404	1,949,206
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,150,000	500,000
資本剰余金		
資本準備金	823,989	31,736
資本剰余金合計	823,989	31,736
利益剰余金		
利益準備金	265,112	265,112
その他利益剰余金		
任意積立金	230,000	230,000
繰越利益剰余金	1,325,557	113,995
利益剰余金合計	1,820,669	609,108
株主資本合計	4,794,659	1,140,845
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△ 13,485	△ 11,950
評価・換算差額等合計	△ 13,485	△ 11,950
純資産合計	4,781,174	1,128,895
負債・純資産合計	6,221,578	3,078,101

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第27期 (自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)	第28期 (自平成24年 4月 1日 至平成25年 3月31日)
営業収益		
委託者報酬	6,349,954	5,603,677
運用受託報酬	872,232	707,864
その他営業収益	280,669	118,196
営業収益合計	7,502,856	6,429,738
営業費用		
支払手数料	2,842,546	2,494,241
広告宣伝費	32,471	41,490
公告費	2,790	2,485
調査費		
調査費	614,323	570,416
委託調査費	1,465,989	1,266,216
営業雑経費		
通信費	26,067	24,881
印刷費	95,270	104,342
協会費	15,587	7,606
図書費	2,254	1,763
営業費用合計	5,097,301	4,513,443
一般管理費		
給料		
役員報酬	54,013	37,100
給料・手当	1,303,864	950,746
賞与	164,583	111,737
役員賞与	13,872	9,622
賞与引当金繰入	80,107	51,275
役員賞与引当金繰入	2,181	3,714
交際費	6,107	1,920
寄付金	1,369	912
旅費交通費	54,095	40,730
租税公課	14,874	11,313
不動産賃借料	216,238	218,403
退職給付費用	29,758	13,714
退職金	44,538	36,071
役員退職慰労引当金繰入	28,559	1,873
固定資産減価償却費	130,727	194,496
業務委託費	889,338	587,813
諸経費	111,245	129,492
一般管理費合計	3,145,477	2,400,940
営業利益又は営業損失（△）	△ 739,921	△ 484,645
営業外収益		
受取利息	9,995	14,348

受取配当金	-	5
雑収入	3,036	9,678
その他	-	18
営業外収益合計	13,032	24,050
営業外費用		
為替差損	57,064	42,221
雑損失	24,555	7
株式交付費償却	1,492	-
その他	24	81
営業外費用合計	83,137	42,309
経常利益又は経常損失（△）	△ 810,026	△ 502,904
特別損失		
固定資産除却損	*1 3,817	*1 9,035
減損損失	-	*2 301,757
退職特別加算金	-	163,070
その他の関係会社有価証券評価損	-	59,042
諸税金	-	*3 84,600
賃貸契約解約違約金	-	35,372
特別損失合計	3,817	652,877
税引前当期純利益又は税引前当期純損失（△）	△ 813,843	△ 1,155,782
法人税、住民税及び事業税	3,020	3,780
法人税等調整額	460,615	-
法人税等合計	463,635	3,780
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 1,277,479	△ 1,159,562

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	第27期 (自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)	第28期 (自平成24年 4月 1日 至平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,150,000	2,150,000
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	△ 1,650,000
当期変動額合計	-	△ 1,650,000
当期末残高	2,150,000	500,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	823,989	823,989
当期変動額		
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	△ 792,253
当期変動額合計	-	△ 792,253
当期末残高	823,989	31,736
その他資本剰余金		
当期首残高	-	-
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	1,650,000
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	792,253
その他資本剰余金の配当	-	△ 2,442,253
当期変動額合計	-	-
当期末残高	-	-
資本剰余金合計		
当期首残高	823,989	823,989
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	1,650,000
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	-
その他資本剰余金の配当	-	△ 2,442,253
当期変動額合計	-	△ 792,253
当期末残高	823,989	31,736
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	265,112	265,112
当期変動額	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	265,112	265,112
その他利益剰余金		
任意積立金		
当期首残高	230,000	230,000
当期変動額	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	230,000	230,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	2,603,036	1,325,557
当期変動額		

剰余金の配当	-	△ 51,998
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 1,277,479	△ 1,159,562
当期変動額合計	△ 1,277,479	△ 1,211,560
当期末残高	1,325,557	113,995
利益剰余金合計		
当期首残高	3,098,149	1,820,669
当期変動額		
剰余金の配当	-	△ 51,998
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 1,277,479	△ 1,159,562
当期変動額合計	△ 1,277,479	△ 1,211,560
当期末残高	1,820,669	609,108
株主資本合計		
当期首残高	6,072,138	4,794,659
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	-
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	-
その他資本剰余金の配当	-	△ 2,442,253
剰余金の配当	-	△ 51,998
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 1,277,479	△ 1,159,562
当期変動額合計	△ 1,277,479	△ 3,653,813
当期末残高	4,794,659	1,140,845
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△ 11,080	△ 13,485
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 2,405	1,535
当期変動額合計	△ 2,405	1,535
当期末残高	△ 13,485	△ 11,950
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△ 11,080	△ 13,485
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 2,405	1,535
当期変動額合計	△ 2,405	1,535
当期末残高	△ 13,485	△ 11,950
純資産合計		
当期首残高	6,061,058	4,781,174
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	-
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	-
その他資本剰余金の配当	-	△ 2,442,253
剰余金の配当	-	△ 51,998
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 1,277,479	△ 1,159,562
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 2,405	1,535
当期変動額合計	△ 1,279,884	△ 3,652,278
当期末残高	4,781,174	1,128,895

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)子会社株式 移動平均法による原価法 (2)その他の関係会社有価証券 移動平均法による原価法 (3)その他有価証券(時価のあるもの) 期末の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
2. 固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産 建物附属設備及び工具器具備品は定率法によっております。 (2)無形固定資産 1.ソフトウェア（自社利用分）については、定額法により、社内における利用可能期間（5年）で償却しております。 2.のれんについては、定額法により、効果が及ぶと見積もられる期間（20年）で償却しております。 (3)長期前払費用 定額法により償却しております。
3. 繰延資産の処理方法	株式交付費 定額法により3年間で償却しております。
4. 引当金の計上基準	(1)賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払いに充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。 (2)役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払いに充てるため、役員賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。 (3)退職給付引当金 従業員の退職給付の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末現在の退職給付要支給額を計上しております。 (4)役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末現在の役員退職慰労金要支給額を計上しております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

会計上の見積もりの変更

有形固定資産の耐用年数の変更	当社が保有する建物附属設備は従来耐用年数を8年から15年として、工具器具備品については6年から8年として減価償却を行ってきましたが、当事業年度において本社事務所再構築に着手しており、建物附属設備及び工具器具備品の除却が確実に発生することが予想されるため、対象となる建物附属設備及び工具器具備品の耐用年数を除却までの期間（建物附属設備3年、工具器具備品3年）に見直し、将来に渡り変更しております。 この変更により、従来の方法に比べて、当事業年度の営業損失、経常損失及び税引前当期純損失が各々95,996千円増加しております。
----------------	--

注記事項

(貸借対照表関係)

第27期 平成24年3月31日現在	第28期 平成25年3月31日現在								
*1 有形固定資産の減価償却累計額 <table> <tr> <td>建物附属設備</td><td>43,995 千円</td></tr> <tr> <td>工具器具備品</td><td>102,248 千円</td></tr> </table> *2 信託資産 現金・預金のうち、10,140千円は、直販顧客分別金信託契約により、三菱UFJ信託銀行株式会社に信託しております。	建物附属設備	43,995 千円	工具器具備品	102,248 千円	*1 有形固定資産の減価償却累計額 <table> <tr> <td>建物附属設備</td><td>161,833 千円</td></tr> <tr> <td>工具器具備品</td><td>127,369 千円</td></tr> </table> *2 信託資産 現金・預金のうち、10,143千円は、直販顧客分別金信託契約により、三菱UFJ信託銀行株式会社に信託しております。	建物附属設備	161,833 千円	工具器具備品	127,369 千円
建物附属設備	43,995 千円								
工具器具備品	102,248 千円								
建物附属設備	161,833 千円								
工具器具備品	127,369 千円								

(損益計算書関係)

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日	第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日								
*1 固定資産除却損は、工具器具備品194千円、ソフトウェア3,623千円であります。	*1 固定資産除却損は、建物付属設備2,010千円、工具器具備品632千円、ソフトウェア6,393千円であります。 *2 減損損失 当事業年度において、当社は以下の通り減損損失を計上致しました。 <table><tr><th>場所</th><th>用途</th><th>種類</th><th>減損損失(千円)</th></tr><tr><td>本社（東京都千代田区）</td><td>第一種金融商品取引業</td><td>のれん</td><td>301,757</td></tr></table> 資産のグルーピングについては、主に内部管理上の区分に基づいております。 当社は、上記資産に係る事業の廃止を予定しており、当該事業に係る既存契約の解約状況及び市場動向を勘案して評価した結果、のれん未償却残高の全額を減損損失として特別損失に計上しております。 尚、回収可能価額は使用価値により算定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスのため、割引率の算定はしていません。 *3 諸税金 子会社取得に伴い、海外で贈与税84,600千円を申告納付致しました。	場所	用途	種類	減損損失(千円)	本社（東京都千代田区）	第一種金融商品取引業	のれん	301,757
場所	用途	種類	減損損失(千円)						
本社（東京都千代田区）	第一種金融商品取引業	のれん	301,757						

(株主資本等変動計算書関係)

第27期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

1.発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	41,000 株	-	-	41,000 株
合 計	41,000 株	-	-	41,000 株

2.配当に関する事項

配当支払額

該当事項はありません。

第28期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	41,000 株	-	-	41,000 株
合 計	41,000 株	-	-	41,000 株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

① 金銭による配当

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月29日の 定時株主総会	普通株式	51,998	1,268	平成24年3月31日	平成24年8月13日

② 金銭以外による配当

決議	株式の 種類	配当財産の種類	配当財産の 帳簿価額 (千円)	一株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月29日の 定時株主総会	普通株式	パインブリッジ・イン ベストメンツ・ ホールディングス US LLCに対する貸付金債 権及び利息債権	2,442,253	59,567	平成24年3月31日	平成24年8月13日

(リース取引関係)

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日		第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日	
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに 係る未経過リース料		オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに 係る未経過リース料	
未経過リース料期末残高相当額		未経過リース料期末残高相当額	
1年内	217,143 千円	1年内	158,990 千円
1年超	57,674 千円	1年超	168,859 千円
合計	274,817 千円	合計	327,849 千円

第27期（自 平成23年4月 1日至 平成24年3月31日）

1.金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用について短期的な預金及びグループ会社への貸付金に限定しております。又、所要資金は自己資金で賄っており、銀行借入、社債発行等による資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金は銀行の信用リスクに晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。未収入金及びその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関に係る銀行のみで運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、投資信託又は取引相手毎に残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。又、未収入金は概ね海外の関連会社との取引により生じたものであり、定期的に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクについては、個別の案件毎に毎月残高照合等を行い、リスクを管理しております。

流動性リスク（支払期日に支払を実行出来なくなるリスク）の管理

当社は日々資金残高管理を行っております。又、月次で資金繰り予定表を作成・更新するとともに、手元流動性(最低限必要な運転資金)を状況に応じて見直し・維持する事等により、流動性リスクを管理しております。

2.金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。尚、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
1) 現金・預金	1,673,740	1,673,740	-
2) 未収入金	466,276	466,276	-
3) 未収運用受託報酬	222,132	222,132	-
4) 長期貸付金	2,428,604	2,445,051	16,447
資産計	4,790,752	4,807,199	16,447
1) 未払費用	831,782	831,782	-
負債計	831,782	831,782	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

1) 現金・預金、2) 未収入金、3) 未収運用受託報酬

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

4) 長期貸付金

長期貸付金の時価の算定は、信用リスクを加味した将来キャッシュフローを国債の利回り等適切な利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

1)未払費用

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
1) 現金・預金	1,673,740	-	-	-
2) 未収入金	466,276	-	-	-
3) 未収運用受託報酬	222,132	-	-	-
4) 長期貸付金	-	2,428,604	-	-
合計	2,362,148	2,428,604	-	-

第28期（自 平成24年4月 1日至 平成25年3月31日）

1.金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用について短期的な預金及びグループ会社への貸付金に限定しております。又、所要資金は自己資金で賄っており、銀行借入、社債発行等による資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金は銀行の信用リスクに晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。未収入金及びその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関に係る銀行のみで運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、投資信託又は取引相手毎に残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。又、未収入金は概ね海外の関連会社との取引により生じたものであり、定期的に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクについては、個別の案件毎に毎月残高照合等を行い、リスクを管理しております。

流動性リスク（支払期日に支払を実行出来なくなるリスク）の管理

当社は日々資金残高管理を行っております。又、月次で資金繰り予定表を作成・更新するとともに、手元流動性(最低限必要な運転資金)を状況に応じて見直し・維持する事等により、流動性リスクを管理しております。

2.金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
1) 現金・預金	334,667	334,667	-
2) 未収委託者報酬	1,596,855	1,596,855	-
3) 未収運用受託報酬	223,887	223,887	-
資産計	2,155,409	2,155,409	-

1) 未払費用	694,184	694,184	-
2) 未払手数料	722,328	722,328	-
3) その他未払金	263,346	263,346	-
負債計	1,679,858	1,679,858	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

1) 現金・預金、2) 未収委託者報酬、3) 未収運用受託報酬

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

1) 未払費用、2) 未払手数料、3) その他未払金

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）子会社株式（貸借対照表計上額371,079千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
1) 現金・預金	334,667	-	-	-
2) 未収委託者報酬	1,596,855	-	-	-
3) 未収運用受託報酬	223,887	-	-	-
合計	2,155,409	-	-	-

(有価証券関係)

第27期 平成24年3月31日現在				第28期 平成25年3月31日現在			
1.その他の関係会社有価証券 (単位：千円)				1.子会社株式及びその他の関係会社有価証券 (単位：千円)			
区分	貸借対照表計上額			区分	貸借対照表計上額		
その他の関係会社有価証券	70,499			子会社株式	371,079		
				その他の関係会社有価証券	1,798		
上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものとあります。				(注) 表中のその他の関係会社有価証券は減損処理後の帳簿価額であります。尚、当事業年度において減損処理を行い、その他の関係会社有価証券評価損59,042千円を計上しております。			
2.その他有価証券で時価のあるもの (単位：千円)				2.その他有価証券で時価のあるもの (単位：千円)			
区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額	区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの				貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
投資信託受益証券	89,514	103,000	△ 13,485	投資信託受益証券	88,050	100,000	△ 11,950
3.当事業年度に売却したその他有価証券 売却額：976 千円 売却益の合計額：- 千円 売却損の合計額：24 千円				3.当事業年度に売却したその他有価証券 売却額：3,937 千円 売却益の合計額：18 千円 売却損の合計額：81 千円			

(退職給付関係)

第27期（平成24年3月31日現在）

1. 採用している退職給付制度の概要	
当社は、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を設けております。	
2. 退職給付債務に関する事項	
	千円
退職給付債務	136,736
退職給付引当金	136,736
3. 退職給付費用に関する事項	
	千円
勤務費用	29,758
退職給付費用	29,758

第28期（平成25年3月31日現在）

1. 採用している退職給付制度の概要	
当社は、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を設けております。	
2. 退職給付債務に関する事項	
	千円
退職給付債務	92,637
退職給付引当金	92,637
3. 退職給付費用に関する事項	
	千円
勤務費用	13,714
退職給付費用	13,714

（税効果会計関係）

第27期 平成24年3月31日現在		第28期 平成25年3月31日現在	
1. 繰延税金資産発生的主要原因別内訳		1. 繰延税金資産発生的主要原因別内訳	
(単位：千円)		(単位：千円)	
繰延税金資産		繰延税金資産	
未払金否認	20,060	未払金否認	67,212
賞与引当金否認	31,277	賞与引当金否認	19,489
のれん	49,647	減価償却超過額	36,488
退職給付引当金否認	49,620	退職給付引当金否認	45,688
役員退職慰労引当金否認	15,088	役員退職慰労引当金否認	9,982
繰越欠損金	486,323	関係会社出資金評価損	22,350
その他	32,389	繰越欠損金	705,802
		その他	63,269
繰延税金資産小計	684,408	繰延税金資産小計	970,281
評価性引当額	△ 684,408	評価性引当額	△ 970,281
繰延税金資産合計	-	繰延税金資産合計	-
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	
当事業年度は税引前当期純損失となっており、且つ税務上の課税所得も発生していないため、記載を省略しております。		当事業年度は税引前当期純損失となっており、且つ税務上の課税所得も発生していないため、記載を省略しております。	

(セグメント情報等)

第27期 平成24年3月31日現在	第28期 平成25年3月31日現在																
1. セグメント情報 当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。	1. セグメント情報 当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。																
2. 関連情報 (1) 製品及びサービス毎の情報 (単位：千円) <table><tr><th></th><th>委託者報酬</th><th>運用受託報酬</th><th>その他営業収益</th></tr><tr><td>外部顧客への営業収益</td><td>6,349,954</td><td>872,232</td><td>280,669</td></tr></table>		委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益	外部顧客への営業収益	6,349,954	872,232	280,669	2. 関連情報 (1) 製品及びサービス毎の情報 (単位：千円) <table><tr><th></th><th>委託者報酬</th><th>運用受託報酬</th><th>その他営業収益</th></tr><tr><td>外部顧客への営業収益</td><td>5,603,677</td><td>707,864</td><td>118,196</td></tr></table>		委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益	外部顧客への営業収益	5,603,677	707,864	118,196
	委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益														
外部顧客への営業収益	6,349,954	872,232	280,669														
	委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益														
外部顧客への営業収益	5,603,677	707,864	118,196														
(2) 地域毎の情報 ①営業収益 国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しております。 ②有形固定資産 全有形固定資産が国内に所在しているため、記載を省略しております。	(2) 地域毎の情報 ①営業収益 国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しております。 ②有形固定資産 全有形固定資産が国内に所在しているため、記載を省略しております。																
(3) 主要な顧客毎の情報 <table><tr><th>顧客の名称又は氏名</th><th>営業収益(千円)</th></tr><tr><td>年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)</td><td>894,326</td></tr><tr><td>パインブリッジ新成長国債券プラス</td><td>1,600,506</td></tr></table> 当社が運用する投資信託のうち、委託者報酬の金額が営業収益の10%以上のものを記載しております。	顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)	年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	894,326	パインブリッジ新成長国債券プラス	1,600,506	(3) 主要な顧客毎の情報 <table><tr><th>顧客の名称又は氏名</th><th>営業収益(千円)</th></tr><tr><td>年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)</td><td>781,545</td></tr><tr><td>パインブリッジ新成長国債券プラス</td><td>1,108,924</td></tr></table> 当社が運用する投資信託のうち、委託者報酬の金額が営業収益の10%以上のものを記載しております。	顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)	年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	781,545	パインブリッジ新成長国債券プラス	1,108,924				
顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)																
年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	894,326																
パインブリッジ新成長国債券プラス	1,600,506																
顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)																
年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	781,545																
パインブリッジ新成長国債券プラス	1,108,924																

（関連当事者情報）

第27期（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 関連当事者との取引

（１）親会社及び法人主要株主等

該当事項ありません。

（２）兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有割合)	関係内容		取引の内容	取引金額 *1	科目	期末残高 *1
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社の子会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス US LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 137,451	持株会社	-	-	経営管理	貸付金の回収	千円 -	未収入金	千円 251,172
								金銭の貸付 *2	千円 2,428,604	長期貸付金 *2	千円 2,428,604
								役務提供に対する対価支払	千円 714,927	未払費用	千円 143,333
親会社の子会社	パインブリッジ・インベストメンツ LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 2	投資運用会社	-	-	一任及び助言契約	委託調査費の支払 *3	千円 245,995	未払費用	千円 79,418
								その他役務提供に対する対価受取	千円 160,063	未収入金	千円 203,148
親会社の子会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド	イギリス、ロンドン	千スターリングポンド 200	投資運用会社	-	-	一任及び助言契約	委託調査費の支払 *3	千円 516,003	未払費用	千円 227,613

（取引条件及び取引条件の決定方針等）

*1 消費税等の取り扱いについては、国内取引については損益計算書項目は税抜き、貸借対照表項目については税込みで表示しております。尚、海外取引は全て免税取引となっております。

*2 貸付金は1,254,000千円及び1,174,604千円の二契約であり、貸付期間はそれぞれ平成24年3月26日から平成26年3月25日、及び平成24年3月31日から平成26年3月31日となっており、受取利息は満期時に元本とともに支払われ、利息額は利息計算期間初日の二営業日前のTIBOR12ヶ月物プラス1%を日割り計算で計算されます。尚、担保は受け入れておりません。

*3 委託調査費の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

パインブリッジ・インベストメンツ・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・（ホンコン）・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・リミテッドSarl（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングスB.V.（金融商品取引所に上場しておりません）

（2）重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項ありません。

第28期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1. 関連当事者との取引

（1）親会社及び法人主要株主等

該当事項ありません。

（2）財務諸表提出会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	パインブリッジ・インベストメンツ・キャピタル・インディア・プライベート・リミテッド	インド、ムンバイ	千INDルピー 1,136,147	持株会社	所有直接 99.9%	兼任二名	-	増資の引受 *1	千円 211,740	-	千円 -

（3）財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 *2	科目	期末残高 *2
						役員の兼任等	事業上の関係				
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス US LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 156,980	持株会社	-	-	経営管理	貸付金債権及び利息債権の親会社への譲渡による消滅 *3	千円 2,442,253	-	千円 -
								役務提供に対する対価支払	千円 435,890	未払費用	千円 128,854
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 2	投資運用会社	-	-	一任及び助言契約	委託調査費の支払 *4	千円 216,741	未払費用	千円 83,655
								役務提供に対する対価支払	千円 39,467	未払費用	千円 33,597

			千スターリ ングポンド						千円		千円
同一の 親会社 を持つ 会社	パインブリッジ・ インベストメン ツ・ヨーロッパ・ リミテッド	イギリス、ロンド ン	200	投資運 用会社	-	-	一任及び 助言契約	委託調査 費の支払 *4	404,020	未払費用	92,259

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- *1 増資の引受は、子会社が行った増資を全額引き受けたものであります。
- *2 消費税の取り扱いについては、国内取引については損益計算書項目は税抜き、貸借対照表項目については税込みで表示しております。尚、海外取引は全て免税取引となっております。
- *3 貸付金は1,254,000千円及び1,174,604千円の二契約がありましたが、平成24年8月13日をもって未収利息を含めた全額が、現物配当として当社の親会社であるパインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス B.V.に対し債権譲渡されました。
- *4 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

2.親会社又は重要な関連当事者に関する注記

(1) 親会社情報

パインブリッジ・インベストメンツ・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・（ホンコン）・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・リミテッドSarl（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングスB.V.（金融商品取引所に上場しておりません）

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項ありません。

(1株当たり情報)

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日		第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日	
1株当たり純資産額	116,613円99銭	1株当たり純資産額	27,534円 3銭
1株当たり当期純損失金額	31,158円 3銭	1株当たり当期純損失金額	28,282円 1銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純損失金額については、新株予約権付社債の発行がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益額については、新株予約権付社債の発行がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純損失金額の算定の基礎は、以下のとおりであります。

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日		第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日	
当期純損失	1,277,479千円	当期純損失	1,159,562千円
普通株主に帰属しない金額	-	普通株主に帰属しない金額	-
普通株主に係る当期純損失	1,277,479千円	普通株主に係る当期純損失	1,159,562千円
普通株式の期中平均株式数	41,000株	普通株式の期中平均株式数	41,000株

(重要な後発事象)

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日	第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日
(退職者の募集) 当社は、経営改善計画の一環として、平成24年6月8日から従業員及び役員80名中16名の雇用調整を実施しており、これによる割増退職金等の支出見込額（約220,014千円）を特別損失として平成24年度に計上する予定であります。	該当事項はありません。

2. 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

第29期中間会計期間末 (平成25年9月30日現在)		
資産の部		
流動資産		
現金・預金	*1	727,362
前払費用		49,741
未収入金		26,274
未収委託者報酬		1,651,290
未収運用受託報酬		310,596
立替金		31,006
未収還付法人税等		4
流動資産合計		2,796,276
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	*2	70,537
工具器具備品	*2	26,298
有形固定資産合計		96,836
無形固定資産		
ソフトウェア		37,402
電話加入権		3,875
無形固定資産合計		41,278
投資その他の資産		
投資有価証券		88,740
関係会社株式		385,081
敷金保証金		137,152
長期前払費用		34,438
預託金		74
投資その他の資産合計		645,487
固定資産合計		783,601
資産合計		3,579,878

(単位:千円)

第29期中間会計期間末 (平成25年9月30日現在)	
負債の部	
流動負債	
預り金	14,185
未払手数料	737,828
その他未払金	142,438
未払費用	1,127,999
前受収益	10,655
未払消費税等	*3 26,835
賞与引当金	171,258
役員賞与引当金	11,143
流動負債合計	2,242,344
固定負債	
退職給付引当金	88,473
役員退職慰労引当金	28,424
長期前受収益	33,755
その他	18,758
固定負債合計	169,412
負債合計	2,411,757
純資産の部	
株主資本	
資本金	500,000
資本剰余金	
資本準備金	31,736
資本剰余金合計	31,736
利益剰余金	
利益準備金	265,112
その他利益剰余金	
任意積立金	230,000
繰越利益剰余金	152,532
利益剰余金合計	647,644
株主資本合計	1,179,381
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	△ 11,260
評価・換算差額等合計	△ 11,260
純資産合計	1,168,121
負債・純資産合計	3,579,878

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

第29期中間会計期間 (自平成25年4月 1日 至平成25年9月30日)		
営業収益		
委託者報酬		3,166,116
運用受託報酬		497,497
その他営業収益		31,636
営業収益合計		3,695,250
営業費用及び一般管理費	*1	3,616,667
営業利益		78,583
営業外収益		
受取利息		85
雑収入		62
営業外収益合計		147
営業外費用		
為替差損		1,493
雑損失		6
営業外費用合計		1,499
経常利益		77,231
特別損失		
固定資産除却損	*2	3,727
退職特別加算金		33,077
特別損失合計		36,804
税引前中間純利益		40,426
法人税、住民税及び事業税		1,890
法人税等合計		1,890
中間純利益		38,536

(3)中間株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第29期中間会計期間 (自平成25年4月 1日 至平成25年9月30日)	
株主資本	
資本金	
当期首残高	500,000
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	500,000
資本剰余金	
資本準備金	
当期首残高	31,736
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	31,736
資本剰余金合計	
当期首残高	31,736
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	31,736
利益剰余金	
利益準備金	
当期首残高	265,112
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	265,112
その他利益剰余金	
任意積立金	
当期首残高	230,000
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	230,000
繰越利益剰余金	
当期首残高	113,995
当中間期変動額	
中間純利益	38,536
当中間期変動額合計	38,536
当中間期末残高	152,532
利益剰余金合計	
当期首残高	609,108
当中間期変動額	
中間純利益	38,536
当中間期変動額合計	38,536
当中間期末残高	647,644
株主資本合計	
当期首残高	1,140,845
当中間期変動額	
中間純利益	38,536
当中間期変動額合計	38,536

当中間期末残高

1,179,381

評価・換算差額

その他有価証券評価差額金

当期首残高

△ 11,950

当中間期変動額

株主資本以外の項目の当期変動額（純額）

690

当中間期変動額合計

690

当中間期末残高

△ 11,260

評価・換算差額等合計

当期首残高

△ 11,950

当中間期変動額

株主資本以外の項目の当期変動額（純額）

690

当中間期変動額合計

690

当中間期末残高

△ 11,260

純資産合計

当期首残高

1,128,895

当中間期変動額

中間純利益

38,536

株主資本以外の項目の当期変動額（純額）

690

当中間期変動額合計

39,226

当中間期末残高

1,168,121

重要な会計方針

第29期 中間会計期間 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)子会社株式 移動平均法による原価法 (2)その他有価証券(時価のあるもの) 中間会計期間末日の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
2. 固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産 建物附属設備及び工具器具備品は定率法によっております。 (2)無形固定資産 ソフトウェア（自社利用分）については、定額法により、社内における利用可能期間（5年）で償却しております。 (3)長期前払費用 定額法により償却しております。
3. 引当金の計上基準	(1)賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払いに充てるため、賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。 (2)役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払いに充てるため、役員賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。 (3)退職給付引当金 従業員の退職給付の支出に充てるため、内規に基づく当中間会計期間末日現在の退職給付引当金要支給額を計上しております。 (4)役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当中間会計期間末日現在の役員退職慰労金要支給額を計上しております。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

第29期 中間会計期間末 平成25年9月30日現在		
*1. 信託資産	現金・預金のうち、10,145千円は、直販顧客分別金信託契約により、三菱UFJ信託銀行株式会社に信託しております。	
*2. 有形固定資産の減価償却累計額	建物附属設備	69,661 千円
	工具器具備品	121,054 千円
*3. 消費税等の取り扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺の上、未払消費税等として表示しております。	

（中間損益計算書関係）

第29期 中間会計期間 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日		
*1. 減価償却実施額	有形固定資産	10,419 千円
	無形固定資産	11,903 千円
*2. 固定資産除却損	有形固定資産	3,727 千円

99/110

（金融商品関係）

第29期 中間会計期間（自 平成25年4月 1日至 平成25年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

当中間会計期間末における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
1) 現金・預金	727,362	727,362	-
2) 未収委託者報酬	1,651,290	1,651,290	-
3) 未収運用受託報酬	310,596	310,596	-
資産計	2,689,248	2,689,248	-
1) 未払費用	1,127,999	1,127,999	-
2) 未払手数料	737,828	737,828	-
負債計	1,865,827	1,865,827	-

（注1） 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

1) 現金・預金、2) 未収委託者報酬、3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

1) 未払費用、2) 未払手数料

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2） 子会社株式（貸借対照表計上額385,081千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

(有価証券関係)

第29期 中間会計期間末
平成25年9月30日現在

1. 関係会社株式

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額
子会社株式	385,081

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

2. その他有価証券で時価のあるもの

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
投資信託受益証券	88,740	100,000	△ 11,260

(セグメント情報等)

第29期 中間会計期間
自 平成25年4月 1日
至 平成25年9月30日

1.セグメント情報

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

2.関連情報

(1) 製品及びサービス毎の情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益
外部顧客による営業収益	3,166,116	497,497	31,636

(2) 地域毎の情報

①営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しております。

②有形固定資産

全有形固定資産が国内に所在しているため、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客毎の情報

顧客の名称	営業収益（千円）
年金バランス50ファンド（適格機関投資家向け）	416,407
パインブリッジ新成長国債券プラス	452,536

当社が運用する投資信託のうち、委託者報酬の金額が営業収益の10%以上のものを記載しております。

（１株当たり情報）

第29期 中間会計期間 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日	
1株当たり純資産額	28,490円76 銭
1株当たり中間純利益金額	939円90 銭
(注)	
1.潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式がないため記載していません。	
2.1株当たり中間純利益金額の算定の基礎は、以下のとおりであります。	
中間損益計算書上の中間純利益	38,536千円
普通株式に係る中間純利益	38,536千円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳	該当事項はありません
普通株式の期中平均株式数	41,000株

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- （１）自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- （２）運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- （３）通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（４）（５）において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。
- （４）委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- （５）上記（３）（４）に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

（１）定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

（２）訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

1) 受託会社

①名称及び資本金の額（平成25年9月末日現在）

三菱UFJ信託銀行株式会社 324,279百万円

②事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

2) 販売会社

①名称及び資本金の額（平成25年9月末日現在）

株式会社広島銀行 54,573百万円

②事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

3) マザーファンドの投資顧問会社

①名称及び資本金の額（平成25年9月末日現在）

パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド 200千英国ポンド

②事業の内容

主として、英国において、投資顧問業を営んでいます。

2【関係業務の概要】

1) 受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

なお、信託事務の処理の一部について、後記の日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。

2) 販売会社

当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の実行請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

3) マザーファンドの投資顧問会社

ファンドの投資対象であるマザーファンドの投資顧問会社として、委託会社より当該マザーファンドの外貨建資産の運用指図に関する権限の委託を受け、運用に関する投資判断、発注等を行います。

3【資本関係】

1) 受託会社

該当事項はありません。

2) 販売会社

該当事項はありません。

3) マザーファンドの投資顧問会社

該当事項はありません。

《参考情報》再信託受託会社の概要

名称：日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金：10,000百万円（平成25年9月末日現在）

資本構成：三菱UFJ信託銀行株式会社46.5%、日本生命保険相互会社33.5%、
明治安田生命保険相互会社10.0%、農中信託銀行株式会社10.0%

業務の内容 ：**銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。**

第3【参考情報】

平成25年 6月 6日	臨時報告書	提出
平成25年 8月 6日	臨時報告書	提出
平成25年 8月23日	有価証券報告書、有価証券届出書の訂正届出書	提出
平成25年10月 4日	臨時報告書	提出

独立監査人の監査報告書

平成26年1月8日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指 定 社 員 公認会計士 荒 川 進 ⑩
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているパインブリッジ新成長国債インカムオープンの前25年5月28日から前25年11月25日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、パインブリッジ新成長国債インカムオープンの前25年11月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成25年6月13日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指 定 社 員 公認会計士 荒 川 進 ⑩
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているパインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第28期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、パインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（中間）へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成25年12月9日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指 定 社 員 公認会計士 荒 川 進 ⑧
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているパインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成25年4月1日から平成25年12月31日までの第29期事業年度の中間会計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、パインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成25年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)